2027年3月期 第2四半期 決算説明資料

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

2026年11月12日

東証GRT
336A

目次

01 会社・事業概要

02 フィジカルAIにおけるデータの価値

03 2027年3月期 第2四半期実績及び通期業績見通し

04 パイプラインアップデート

05 Appendix

01

会社・事業概要

会社概要

会社名	ダイナミックマッププラットフォーム株式会社（証券コード: 336A）
設立	2016年6月13日
本社所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目12番４号
拠点	日本、米国、ドイツ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、韓国
従業員数	251名（2026年11 月時点）(1)
事業内容	● 自動運転・先進運転支援システム等に利用される高精度 3 次元地図データ（HD マップ）の生成・販売 ● HD マップ関連技術を用いた（自動運転以外の）多用途での高精度位置情報・ソリューションの提供

設立経緯

日本政府主導により、国内主要自動車会社等が出資し、当社が設立
その後、General Motors Companyの投資先であった在米国HDマップ企業を完全買収し、グローバルに事業展開

日本政府

内閣府 Cabinet Office

国内主要自動車会社

TOYOTA / HONDA / NISSAN / SUBARU / SUZUKI / mazda / DAIHATSU / MITSUBISHI MOTORS / ISUZU / HINO

当社設立

DYNAMIC MAP PLATFORM

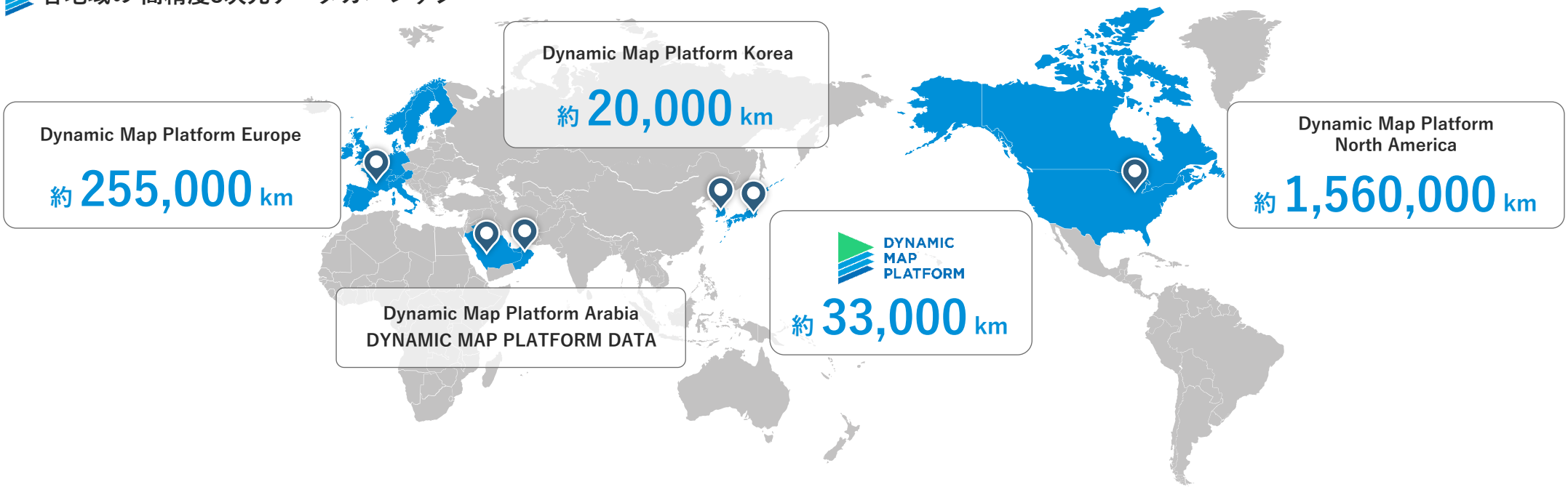
注：(1) 従業員数には派遣社員を含む

数字でみるダイナミックマッププラットフォーム

グローバルにビジネス展開しフィジカルAI向けデータを提供、ライセンス型で事業拡大

26ヵ国	74%	57億円	121%	180万km	約30%
進出国数(1) 北米、欧州、日本 韓国、中東	海外売上高比率 2026年3月期	連結売上高 2026年3月期	ライセンス型売上高成長率 2026年3月期	高精度3次元データカバレッジ 2026年時点	フィジカルAI市場年平均成長率(2) 今後10年間の予想

各地域の 高精度3次元データカバレッジ(3)



出所：(1) (3) 2026年11月時点、(2) Grand View Research、Acumen Research & Consulting等を基に当社作成

ハイライト



Global Deep-tech

ダイナミックマップという高精度な位置情報基盤をグローバルに構築するディープテック型のスタートアップ

High Growth

日系大手自動車メーカー10社やGeneral Motors Company / 日本国政府等の優良な顧客基盤を持ち高い売上成長性を実現可能

High Competitiveness

競合比でも圧倒的な高精度3次元データを保有しており世界初の自動運転レベル2+・レベル3の実現に寄与してきた高い技術力を有している競争優位性

High Profitability

ビジネスモデルについてはプロジェクト型ビジネスとライセンス型ビジネスの2本柱
プロジェクト型ビジネスを通じてデータ基盤が整っており、以降は高い利益率が期待できる
ライセンス型ビジネスによって高収益体質の実現を目指す

Modeling the Earth

高精度3次元データプラットフォーマーとして様々な情報を集約

分析・制御・予測が可能な世界を実現し、社会課題解決に資するイノベーションを実現

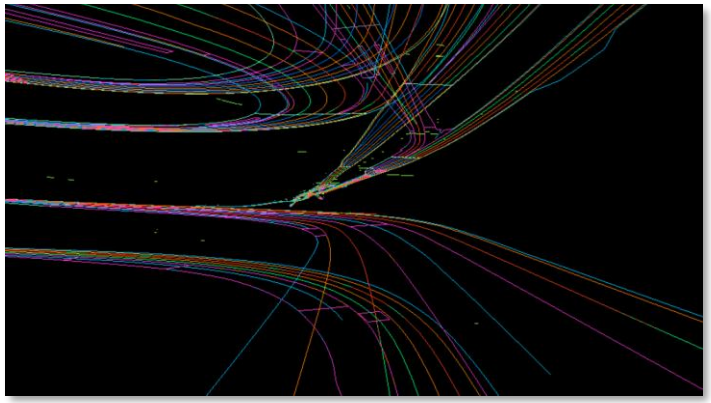


当社の提供するサービス

自動運転やさまざまな空間サービスの基盤となる、道路や周辺環境、位置・空間構造を高精度に表現した3次元地図データ

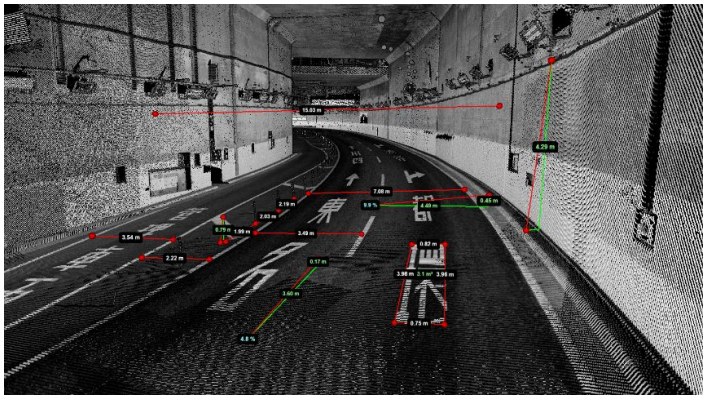
自動運転・フィジカルAI向けデータ

自動運転や先進運転支援システムほか
幅広い産業分野に



Viewer

高精度3次元点群データが
閲覧・分析可能なプラットフォーム



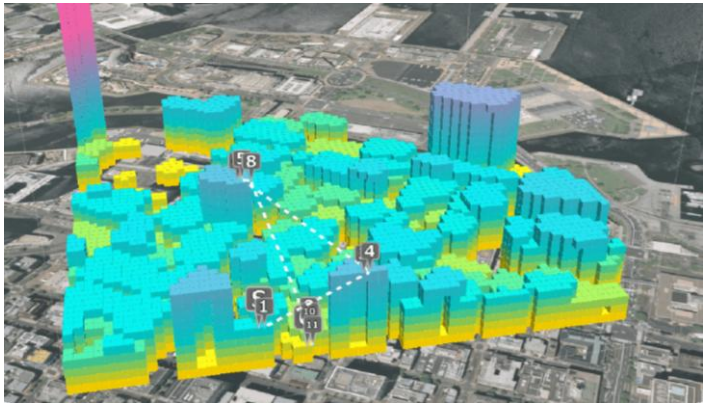
Guidance

3次元地図データの生成技術を応用した
高精度ガイダンス



位置情報サービス

「空間ID」を使って
多彩な用途に

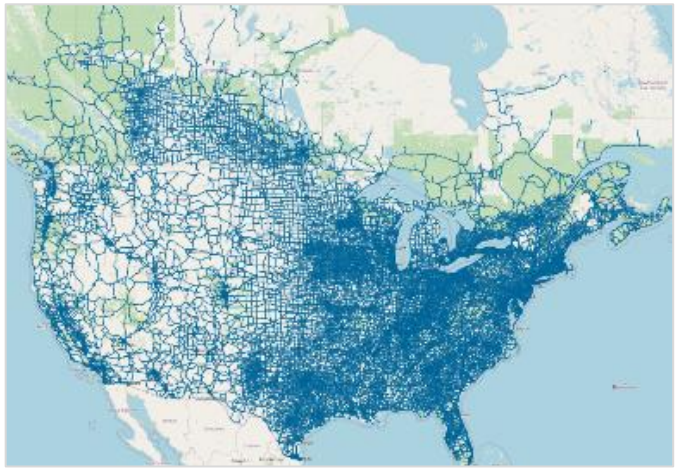


世界最大級の高精度3次元データを構築

グローバルで圧倒的なデータベースを構築（カバレッジ180万km）
世界各国における産業のデジタル化、社会課題解決に貢献する大きなポテンシャルを有する

北米における当社データカバレッジ

1,560,000 km



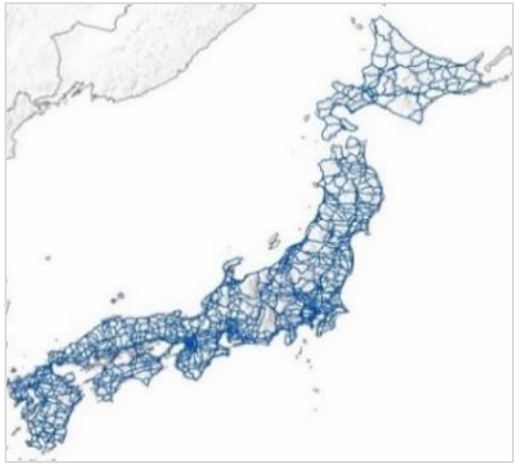
欧州における当社データカバレッジ

255,000 km



日本における当社のデータカバレッジ

高速道路 **33,000 km**



その他地域における当社のデータカバレッジ

韓国

高速道路

20,000 km

中東

高速道路

26年度中の整備完了見込み

先進国地域の整備は概ね完了

出所: Reliable Map Data for Hands-Free Driving | DMP North America (dmp-maps.com) 2026年11月時点

ビジネスモデル全体像（プロジェクトとライセンスの2本柱）

プロジェクト型ビジネス：一定の粗利率を前提に受注
ライセンス型ビジネス：整備済みデータ等を活用したビジネスであり高い収益性を期待できる

プロジェクト型　事業基盤構築

- **一定の粗利率**を前提に案件を選別して受注
- **R&D**としての役割、**自己投資を減らしながら事業基盤を構築**
- **売上原価は主にプロジェクト受注に伴う変動費**

A オートモーティブビジネス	B 3Dデータビジネス
GM他を顧客とした HDマップカバレッジ拡大及び更新	官公庁主導の研究開発案件多数

限界利益率の目安(1)

35～50%

- 案件ごとに人員・外注などの変動費が発生
- 一定の粗利率を前提に個別に受注

ライセンス型　高い収益性を狙う

- **整備済みのアセット（データ・システム）**を活用
- **単価×数量で算定される量産ライセンス売上**と**法人データライセンス売上**で**構成**
- **売上原価は固定的**であり、**粗利率が高い**

C オートモーティブビジネス	D 3Dデータビジネス
量産車へのHDマップ提供 （量産ライセンス） 法人データライセンス	多用途展開可能な プラットフォーム構築 法人データライセンス

限界利益率の目安(1)

80%超

- 整備済みデータ・SWを再利用し追加原価は限定的
- 案件単位の限界利益率の目安は80%超
- 更新・維持などの固定費回収後は、追加売上が高い割合で利益に寄与

注：(1)案件単位の限界利益率。限界利益率は目安であり、将来の水準を保証するものではありません。

各種データ連携を通じたダイナミックマッププラットフォーム構築

公道における静的データ（高精度三次元データ）から事業開始し、現在では空港・港湾・物流センターなど特定エリアへ展開。動的データを統合することでダイナミックマップの構築に取り組む

ダイナミックマップを構成するデータ



ダイナミックマップの階層構造

データ種別	動的	静的
公道（高速/一般道）	C • 周辺車両情報 • 周辺歩行者情報 • 信号機情報 • 交通事故/渋滞/規制情報 • 広域気象情報 • 道路工事の予定	A • 道路空間情報（車線/区画線/標識/信号等） • 建造物の位置/曲率勾配情報 • インフラ情報
公道以外 特定エリア（空港/港湾/物流センター 等）	D • 特定エリア内の人/車両の動き • 施設工事の予定 • 滑走路の航行タイムテーブル • 狭域気象情報	B • 空港/港湾内の空間構造情報 • 障害物/設置物に関する情報

データ取得/事業展開の方向

各種データの取得・連携により実現されるユースケース

類型	用途の例
公道HDマップ型（基本型）	• 公道向け自動運転・先進運転支援システム量産車両への搭載
広域HDマップ型	• デジタルツイン構築に関する調査 • 高精度3次元データの事故調査利用 • インフラ管理ツールの高度化
公道ダイナミックマップ型	• 輸送車向け低炭素運転ガイダンス（エコドライビングシステム） • 公道の除雪作業向けガイダンス
特定エリア ダイナミックマップ型	• 空港・港湾施設における自律移動モビリティ向けアプリケーション開発 • 物流施設向け車両管理システム導入
全方位拡大型	• デジタルライフライン構築に向けた自動運転サービス支援道の設計 • 物流自動化に向けたレベル4自動運転トラック開発 • 車両開発・都市開発等シミュレータ

測量ネットワーク構築 -測量能力拡大の必要性-

空港/港湾/物流センター等の特定エリアにおける事業拡大に向けて、衛星データ･航空写真･ドローン測量などデータ収集方法の多様化と機動的な測量能力を強化

3次元測量の技術動向

- センサ性能の向上や機材の小型化により、データの正確性と迅速性が向上
- 幅広い空間での精密なデータ取得が可能となり、ICT施工やデジタルツイン構築等利用が広がっている

測量システム

MMS



- 車両にLidarとカメラ等を搭載し、移動しながら連続測量
- 走行ルートの道路周辺の点群を高精度に取得

航空測量



- 航空機にカメラやLiDARを搭載し高高度から広域データを取得

ドローン



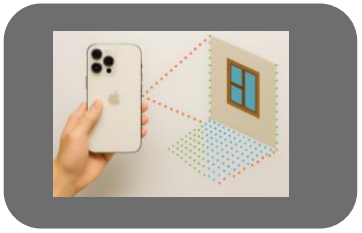
- レーザまたはカメラを搭載し、短時間で広範囲のデータ取得が可能
- 樹木の下の地形も取得可能で、森林や災害地での活用が進む

地上型レーザ／ハンディレーザースキャナ



- 地上でレーザーを照射し測定
- 建物内部や地下空間にも対応

スマホ　Lidar・画像



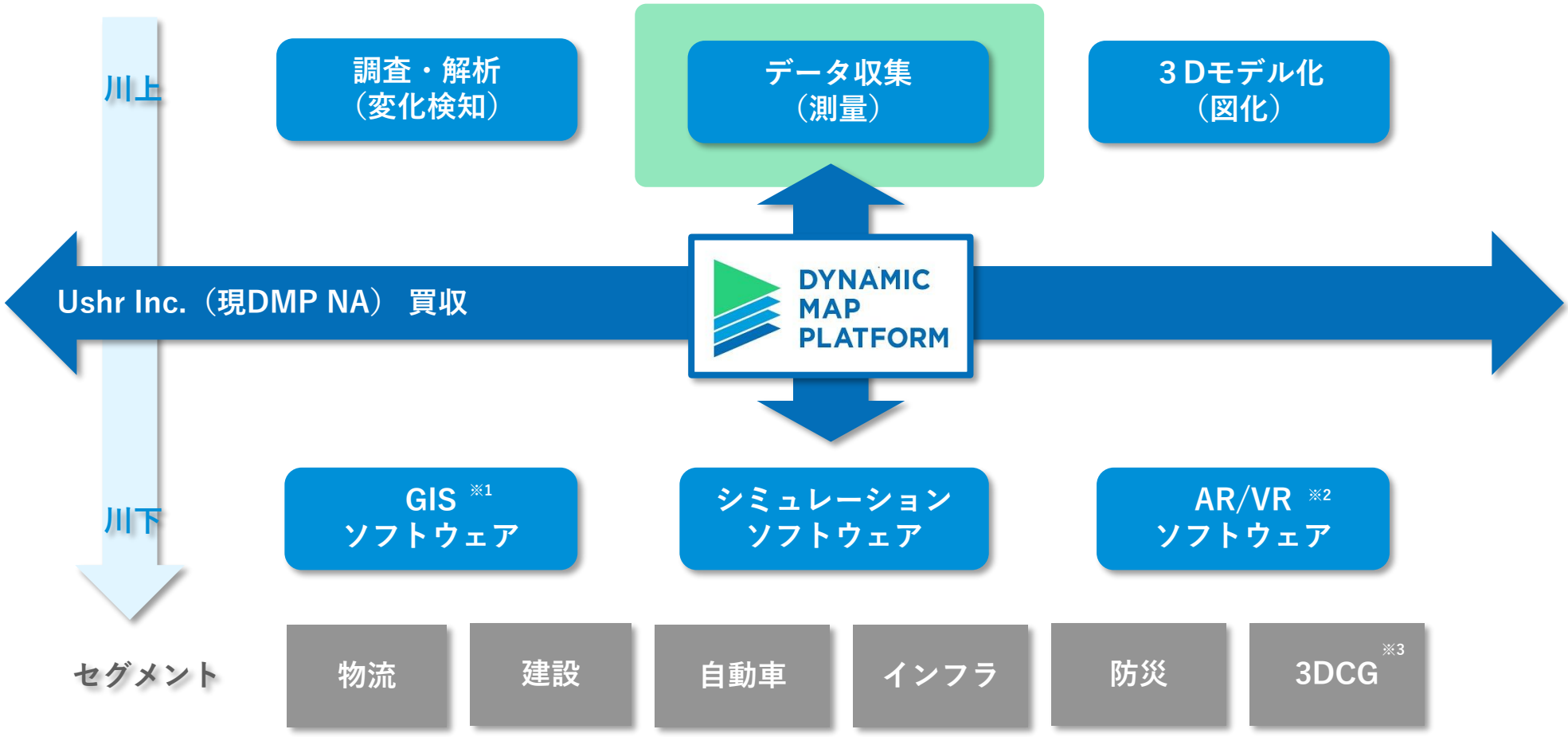
- スマホに搭載されたカメラ、LiDARを活用し、手軽に3D測量が可能

データ処理

- **AIとの融合**：画像や点群データの自動分類・認識、リアルタイム解析が可能に
- **リアルタイム処理**：5G/6G通信を活用し、現場からクラウドへ即時送信・共有
- **非GPS環境対応**：GPSが届かない環境での自己位置推定と地図生成

M&Aによる事業領域拡大

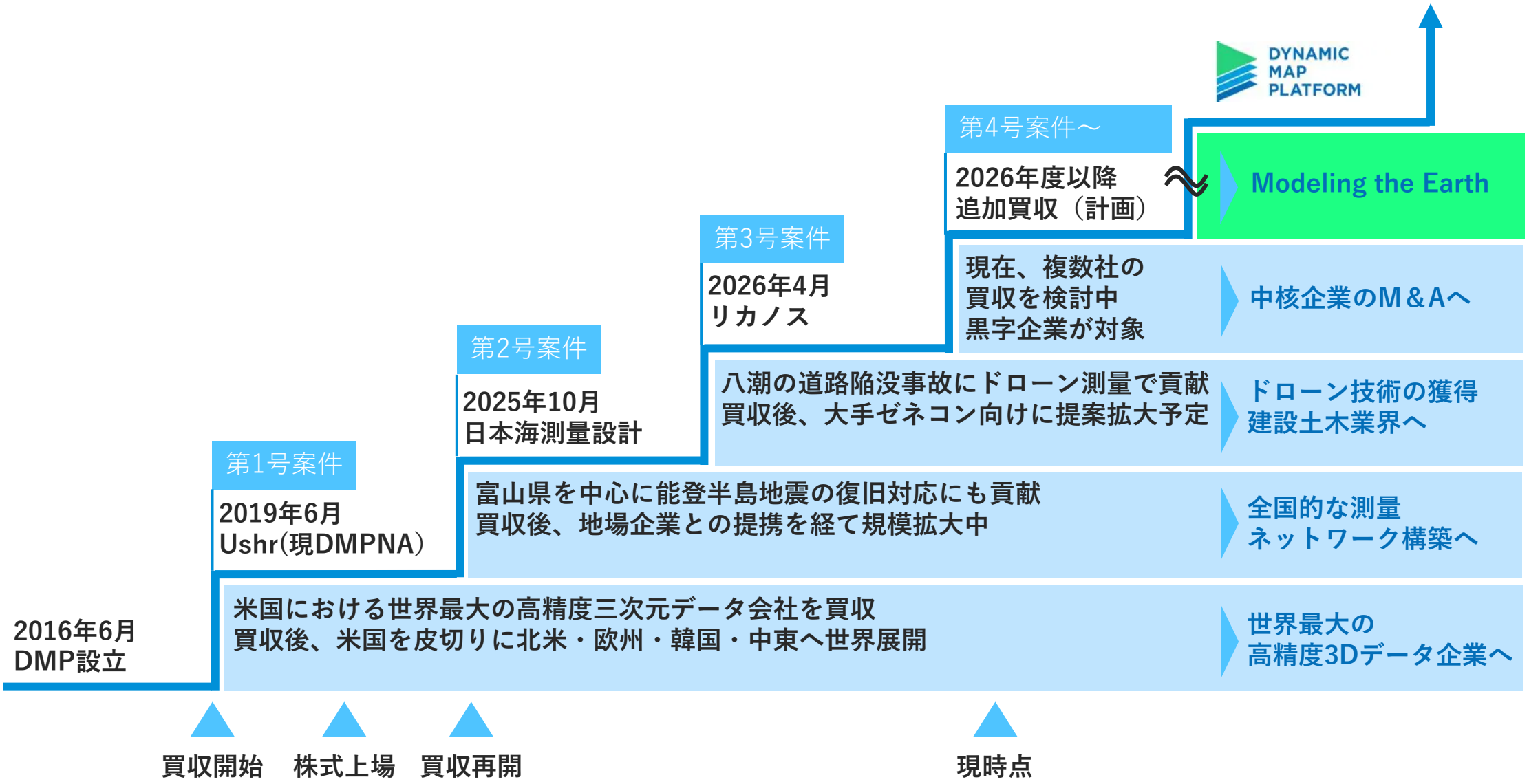
2019年に「水平統合型」M&AとしてUshr, Inc.（現DMP NA）を買収し、グローバル市場No.1のポジションを獲得。2025年の上場を経て「垂直統合型」M&Aとして川上・川下領域を対象にした買収を開始。現在は、データ収集機能を担う測量会社の連続買収を実行中



※1: Geographic Information System ソフトウェア（地理空間データを扱う為のシステム） 2: Augmented Realty （現実世界にデジタル情報を重ねて表示する技術）/ Virtual Realty （完全な仮想空間を構築し、ユーザーを没入させる技術）ソフトウェア
3: 3次元コンピュータグラフィックス（コンピュータを使って立体的な映像やモデルを作成する技術）

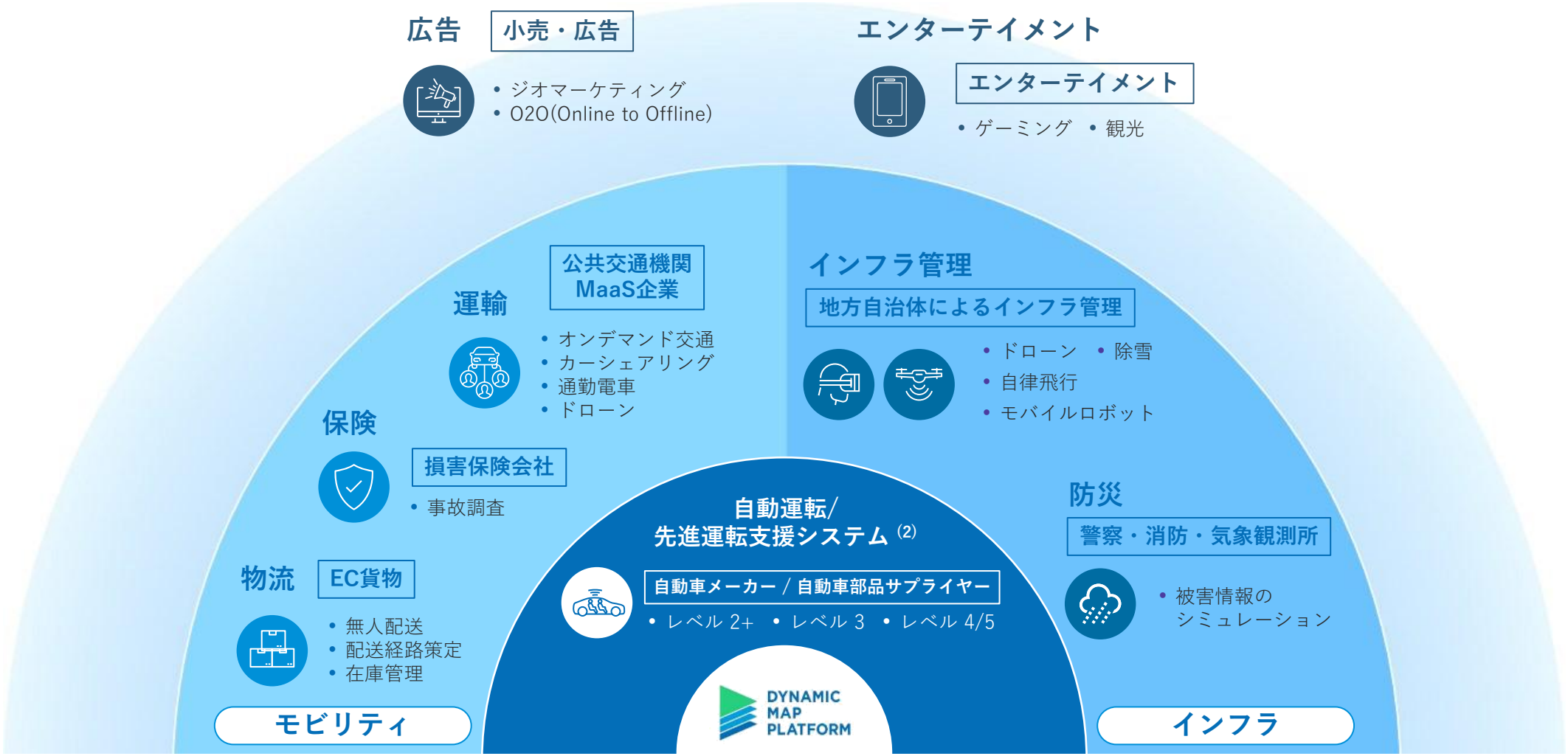
連続的M&Aを通じたグループ拡大

2019年のUshr, Inc.買収からM&Aをスタートさせ2025年の上場を経て2025年度から再開
既に計3件の買収を完了し、今後も黒字企業の連続的M&Aによるグループ拡大・収益性向上を計画



フィジカルAIの「データプラットフォーム」

多様な産業においてフィジカルAI時代における「データプラットフォーム」を提供
自動運転からモビリティ・インフラ・広告・エンターテイメントへ拡がる



注：(1) 上記は当社グループが2026年8月の時点でまだ進出していない分野を含む、ターゲット市場のイメージ (2) レベル0：運転自動化なし、レベル1：運転支援（ハンズオン／シェアードコントロール）、レベル2：特定条件下での自動運転機能（ハンズオフ）、レベル2+：高速道路での条件付自動運転、レベル3：条件付自動運転（アイズオフ）、レベル4：特定条件下における完全自動運転（マインドオフ）、レベル5：完全自動運転（ドライバーオフ）

日本政府戦略17分野における当社データの活用可能性

高精度３次元データ：幅広い戦略分野の課題解決・産業発展に貢献できる可能性

① AI・半導体



AI・半導体の開発・学習・検証データ

②造船



③量子



④合成生物学・バイオ



⑤航空・宇宙



空域管理、空港運用
衛星・宇宙開発

⑥デジタル・サイバーセキュリティ



⑦コンテンツ
（ゲーム・アニメ等）



３D作成・ロケーション活用

⑧フードテック



⑨資源・エネルギー安全保障・GX



発電インフラ構築・維持

⑩防災・国土強靭化



災害シミュレーション・被害把握、除雪支援など

⑪創薬・先端医療



⑫フュージョンエネルギー



⑬マテリアル



⑭港湾ロジスティクス



港湾の自動化・効率化

⑮防衛産業



訓練環境・シミュレーション・インフラ整備

⑯情報通信



通信インフラ設計・維持管理
基地局設置最適化

⑰海洋





当社の高精度３次元データを共通基盤として
多様な分野のDX・自動化・安全促進に貢献

02

フィジカルAIにおけるデータの価値

フィジカルAIとは

自動運転やロボットに代表される物理空間に作用するAI
創業来、物理空間のデータを生成･蓄積してきた当社は優位なポジションにある　（Data for AI）

従来AIとフィジカルAIの違い

	従来AI	フィジカルAI / Embodied AI
代表例	LLM・Agent AI	**自動運転**・**ロボット**・産機建機の自動施工等
対象領域	デジタル内	**物理空間**
安全性/ 失敗時のリスク	誤情報と誤った意思決定	**人身･物損リスク･法的責任**
時間制約	緩い（遅延許容）	**リアルタイム性**が求められる
入出力	既存データ（Webや企業内等にある自然言語・画像・音声など）からの推論	**実世界データをもとに物理空間へ作用**

フィジカルAIの開発を加速するデータフライホイール

実世界データの収集・検索・環境再現から、AIの学習・評価、実環境への実装までを循環させ、Data for AIの品質と活用領域を継続的に拡大



データフライホイールにおける課題

フィジカルAIの開発・評価には、必要な道路条件・地点の特定、データと評価環境の準備、評価結果の十分性確認など、データフライホイールの各段階に課題が存在



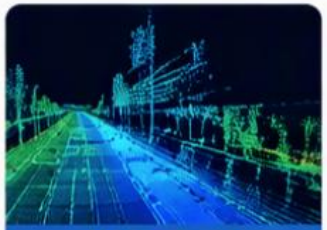
Road Intelligence: 道路を「AIが検索・比較・分析できる条件空間」へ

DYNAMIC MAP PLATFORM

道路の形状・構造・意味情報を検索可能な条件として構造化し、実世界の道路をAIが検索・比較・分析できるデータ基盤へ転換（AIネイティブなデータ基盤へ）

① 実世界の道路データ


高精度3次元地図データ


点群データ


画像・意味情報


路面形状

Text
地点・道路条件の説明
「緩いカーブの先に分岐」

実在地点・道路条件と紐づいたデータ

② Road Intelligence

道路の特徴を表現する2つの方法

人が理解・指定できる道路条件
（明示的特徴量）

曲率・勾配・車線幅・接続関係など

＋

複雑な道路の特徴をAIで数値化
（Embedding）

道路構造の類似性を特徴空間で捉える

③ 条件空間で検索・比較・分析

特徴空間（概念図）



条件で検索
曲率・幅員・接続条件など

似た道路を検索
構造が近い道路を探す

分布を分析
Coverage・偏りを把握

分析結果から実在地点へつなぐ

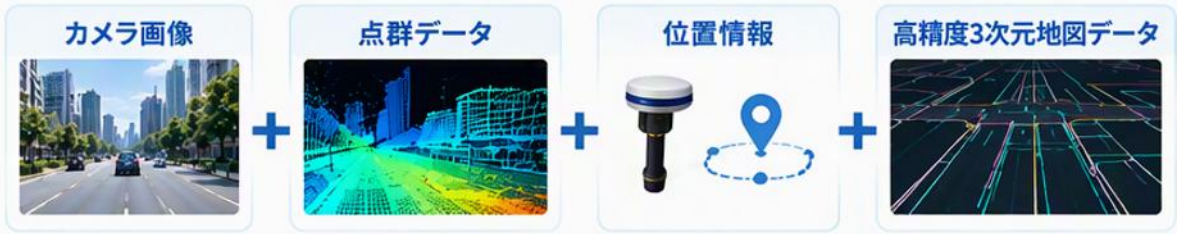


3D Gaussian Splatting（3DGS）：実在道路を「AIが再体験できる空間」にする

DYNAMIC MAP PLATFORM

画像・点群・高精度3次元地図データを統合し、AI学習・評価に活用可能な3D環境モデルを生成

実世界の道路構造や意味情報を反映した、高精度なデータ基盤を構築。任意の視点・走行経路から、AI学習・評価用データを生成可能





1 実測に基づく形状



形状・寸法を実測データに合わせる

2 地図との対応付け



道路・車線の意味情報と3D空間を結び付ける

3 シナリオ編集



実在道路の3D空間に、仮想の交通状況を追加

4 視点の再生成



同じ3D空間を、異なる車両・センサー視点から再現

デモ動画｜公開データセット仕様に対応した評価シナリオ生成

公開データセットのカメラ仕様に合わせて3DGSデータをレンダリングし、対向車などの交通参加者を追加

実走行データにはない条件を再現し、AI学習・評価用シナリオを生成

YouTube: https://youtu.be/NJ1AqVkhMsg



本デモ動画は、公開データセットおよび公開モデルを用いて当社が作成した技術検証例です。

デモ動画｜海外半導体メーカーの公開モデル仕様に合わせた評価データ生成

海外半導体メーカーが公開するモデルのカメラ仕様に合わせて3DGSデータをレンダリングし、既存のAI開発環境で利用可能な学習・評価用データを生成

YouTube: https://youtu.be/aYM8uBQyB_M

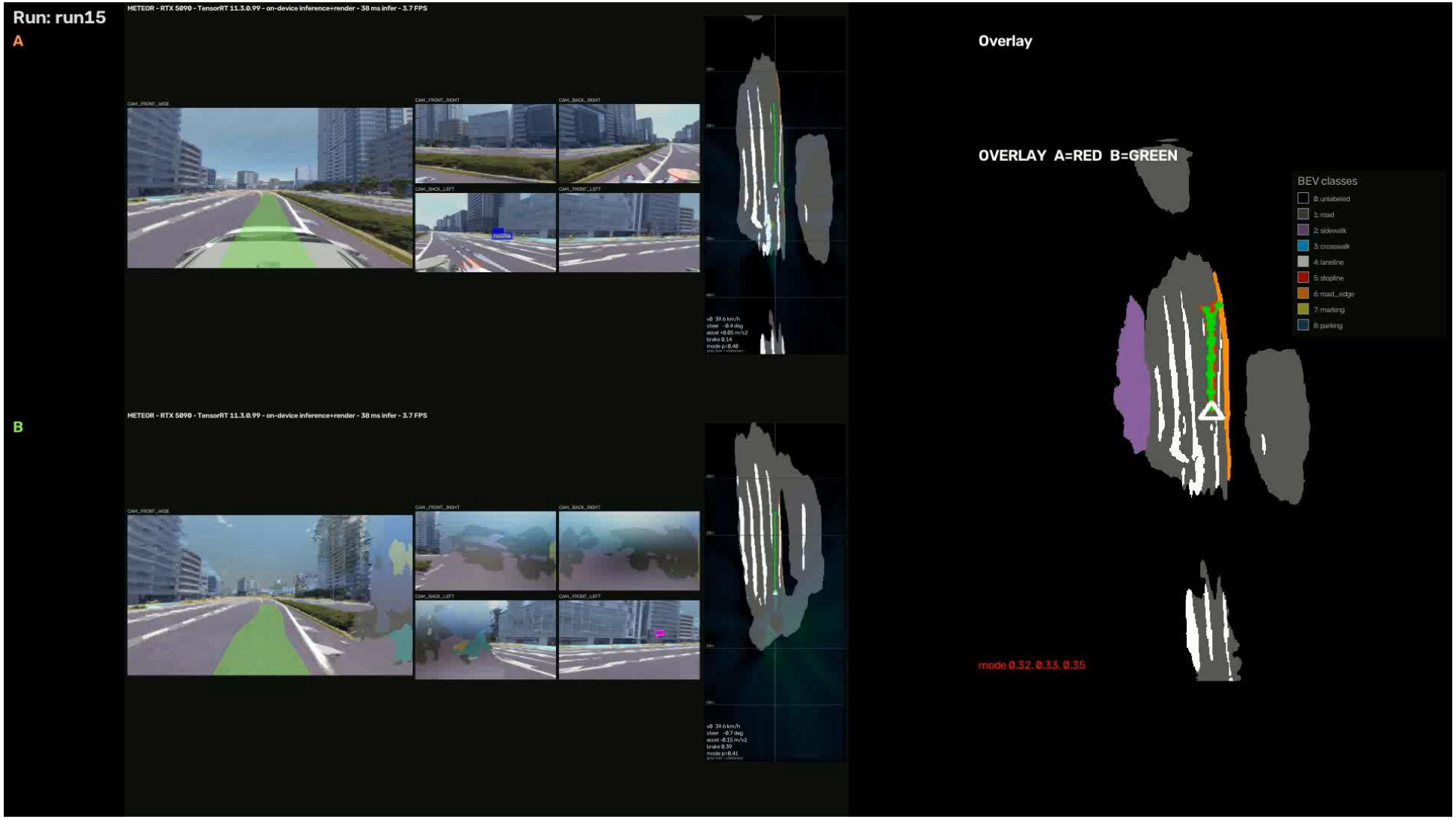


本デモ動画は、公開データセットおよび公開モデルを用いて当社が作成した技術検証例です。

デモ動画｜公開E2Eモデルを用いた3DGSデータの評価・検証

国内自動運転企業の公開E2Eモデルを用いて、実走行データと3DGS生成データに対するモデル出力を比較し、AI学習・評価への活用可能性を検証

YouTube: https://youtu.be/jAOz6J3nGvY



本デモ動画は、公開データセットおよび公開モデルを用いて当社が作成した技術検証例です。

データフライホイールを回すためのソリューション

Road Intelligenceによる評価条件・地点の特定から、実世界データの提供、3D環境モデルと評価シナリオの生成まで、データフライホイールを回すためのソリューションを一貫して提供



データフライホイールが回り続ける限り、新たな条件に対応するデータが必要になる

大手自動車メーカーとの取り組み: 自動運転システムの評価･検証をデータ面から支援

自動運転システムの機能･安全性評価向けに、顧客保有データから生成する3D環境モデルと当社が保有する実世界データセットを提供

既存データをAI向けデータ資産として活用。自動車メーカーの3DGSデータに対するニーズが拡大

背景･顧客ニーズ

外部開発の自動運転システムを導入

↓

自動車メーカー独自の基準で
機能性･安全性を評価･検証

- **機能性評価**
- **安全性検証**
- **道路環境適合**

実車試験を補完する高品質な評価データが必要

当社が提供するデータソリューション

① 顧客保有データを活用した3D環境モデル生成

当社の高精度データ		既存の実世界データ
• 点群、画像、走行軌跡 • 高精度3次元地図データ	＋	• 画像、映像等

↓

AI学習･評価に活用できる3D環境モデル

② 当社が提供するデータセットによる評価･検証

- **点群データ**
- **画像データ**
- **高精度3次元地図データ**

3D環境モデル生成とデータセット提供により、自動運転システムの評価･検証におけるData for AI需要を捕捉

dSPACEとの取り組み: 実世界データをAI学習・評価可能なデジタルツインへ

DYNAMIC MAP PLATFORM

当社の高精度な実世界データとdSPACEのシミュレーション技術 AURELION を組み合わせ、走行ルート、交通状況、交通参加者等の条件を変更したAI学習・評価シナリオを生成

実環境に即したシミュレーションにより、自動運転AIの開発・安全性検証を効率化

当社データ



＋

dSPACE AURELION



dSPACE AURELIONとは

- 実環境に即した道路・交通シナリオを仮想空間に再現
- カメラ、LiDAR、レーダー等のセンサをシミュレーション
- 自動運転・ADASの開発・検証を効率化



dSPACE「AURELION」との活用イメージ

高精度な実世界データとセンサシミュレーションを融合し、AI学習・評価向けSimulation-ready Worldを構築

フィジカルAIのデータフライホイールを加速させるData for AI

自動運転で培った地理空間データと社会実装知見を、 フィジカルAIの開発・評価へ展開する

自動運転で培った基盤



- 実測データ
- 空間・道路条件の理解
- 評価対象の検索・選定
- 環境再現
- 評価結果・来歴の追跡

Data for AI

実世界の地理空間データを、AI開発・評価に使える基盤へ

地理空間を捉える	必要な条件を見つける	開発・評価につなぐ
計測データ・空間情報	検索・選定・条件分析	環境再現・評価・結果の追跡

フィジカルAIに共通する開発・評価課題

1. すべての現場・条件では試せない
2. 希少な条件を集めにくい
3. 実環境と仮想環境には差が残る (Sim-to-real)
4. 代表的な評価環境が必要
5. 評価の再現性と根拠が必要

フィジカルAI領域への展開

物流・配送ロボット	空港の自動化	建設機械	インフラ点検
			

目指すポジション

実世界の地理空間データを起点に、フィジカルAIの開発・評価を支える基盤へ

自動運転を起点に、適用領域を段階的に広げる

領域を越えて生かせる技術

実世界の計測・構造化 | 条件の検索・選定 | 環境再現 | 結果・来歴の追跡

実世界を測る力を、フィジカルAIの開発・評価を支える力へ。

03

2027年3月期 第2四半期実績及び通期見通し

法人・量産ライセンス拡大、フィジカルAI向け事業展開が進展

引き続き法人ライセンス案件の受注・商談が拡大。新車種への搭載により量産ライセンスも拡大

AIネイティブデータの提供、フィジカルAI向けデータ生成、物流分野等でのソリューション提供・実証を通じて、フィジカルAI向け事業展開が進展

2027年3月期 第2四半期進捗

主な取り組み

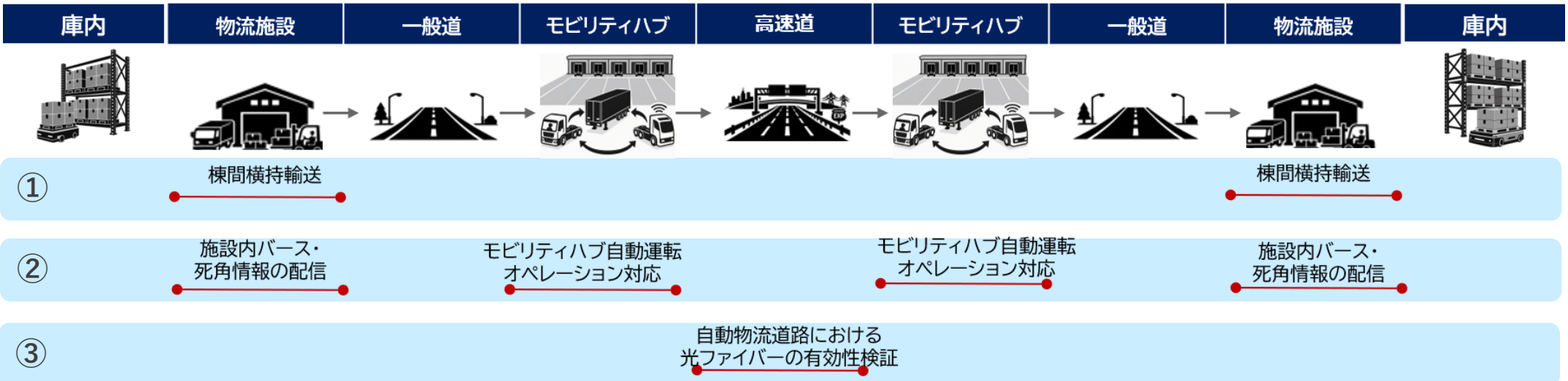
事業	● 海外大手半導体メーカー向けなど、**AI用途のオートモーティブ法人ライセンス**が拡大 ● 当社の高精度3次元地図データが**日産「エルグランド」**に採用、累計採用実績は**計6社/39車種**に ● 3Dmapspocket®が**東京建物**、**シーラ**、**三井不動産レジデンシャル**の不動産開発用途、および**東京海上日動調査サービス**の交通事故調査用途で採用され、活用領域が拡大 ● **物流施設内の横持輸送実証、大和ハウス**との**物流施設・モビリティハブにおける受入環境・運用モデル構築、鹿島建設**との**自動物流道路の社会実装**に向けた実証が**国土交通省事業**に採択、物流自動化の社会実装に向けた取り組みが加速
開発	● 新たな国・地域として、**27ヵ国目、28ヵ国目のデータ新規整備受注・データ整備開始** ● **AIネイティブデータ**がHugging Faceに加え、**Voxel51 Dataset Zoo**から利用可能に。国内外の研究者・開発者コミュニティへリーチ、累計ダウンロード4,500件超。**NVIDIA**、**MathWorks**、**Voxel51**との連携を通じ、実世界データを反映した**フィジカルAI向け学習・評価・検証・合成データ生成基盤を拡充** ● **dSPACE AURELION**との組み合わせにより、実世界データを活用した「**Simulation-ready World**」を開発し、**自動運転AI向けデジタルツイン**の構築に取り組み
M&A	● グループ内**測量会社との連携を強化**、ドローン測量等の保有技術を活用した新規案件獲得、グループ内リソースを活用した外注業務の内製化などグループシナジーが進展 ● **測量会社のネットワーク化（ロールアップ）**、**データ利用を促す川下領域**のM&Aを継続検討

物流自動化の社会実装に向けた取り組みが加速

物流施設内の横持輸送、物流施設・モビリティハブ、自動物流道路の3領域で国土交通省事業に採択

高精度3次元地図データとインフラ協調型モビリティ基盤を核に、物流網全体の自動化に向けた実証を推進

高精度3次元地図データとインフラ協調型モビリティ基盤を、物流施設内から次世代物流インフラまで展開



（物流施設内） ① 横持輸送の自動化	（物流施設・モビリティハブ） ② 受入環境・運用モデルを構築	（次世代物流インフラ） ③ 自動物流道路の社会実装を支援
ひとまいる / TRC Tokyo Ryutsu Center / DYNAMIC MAP PLATFORM / MACNICA / HACOBU	Daiwa House 大和ハウスグループ / DYNAMIC MAP PLATFORM / HACOBU	KAJIMA / DYNAMIC MAP PLATFORM

実世界の空間・車両・施設情報を連携する共通基盤として、物流分野におけるフィジカルAIの社会実装を推進

物流自動化事例①: 物流施設内における横持輸送自動化

施設内の棟間輸送において、横持輸送の一部自動化を実証

自動運転車両・遠隔運行管理・バース管理をインフラ協調型モビリティ基盤で連携。適切な輸送管理と車両の待機時間削減を通じ、物流施設の運用効率化を目指す

実証オペレーションイメージ





施策	輸送の自動化	• 自動運転車両・遠隔運行管理システム(everfleet)・インフラ協調型モビリティ基盤により、横持輸送を一部自動化
	バースの予約管理	• バース管理システムにより、B棟のバース管理(予約・満空管理)を実施することで適切な輸送管理を実現し、待機時間を削減

参画企業: ひとまいる、東京流通センター、当社、マクニカ、Hacobu

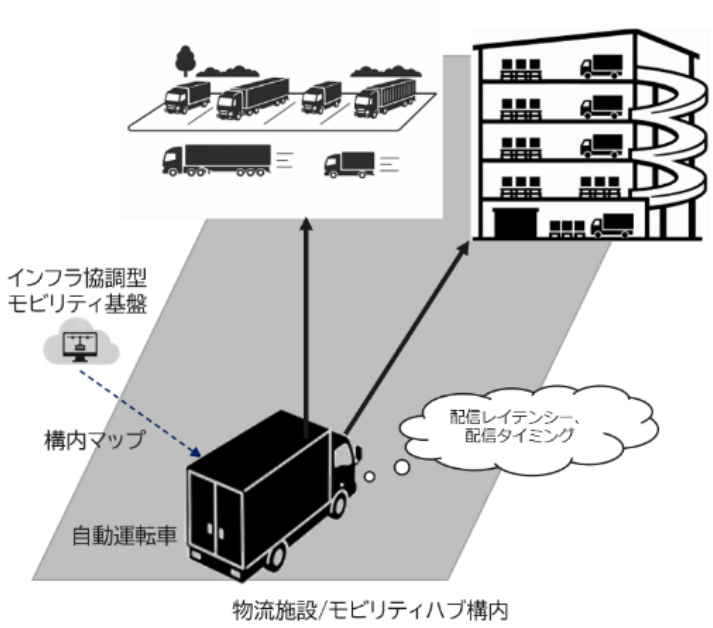
採択事業：国土交通省 令和8年度「デジタル技術を活用した荷主・物流事業者の行動変容促進事業」、案件名：「自動運転車両を用いた物流施設内の横持輸送実証事業」

物流自動化事例②: 物流施設・モビリティハブにおける受入環境・運用モデルを構築

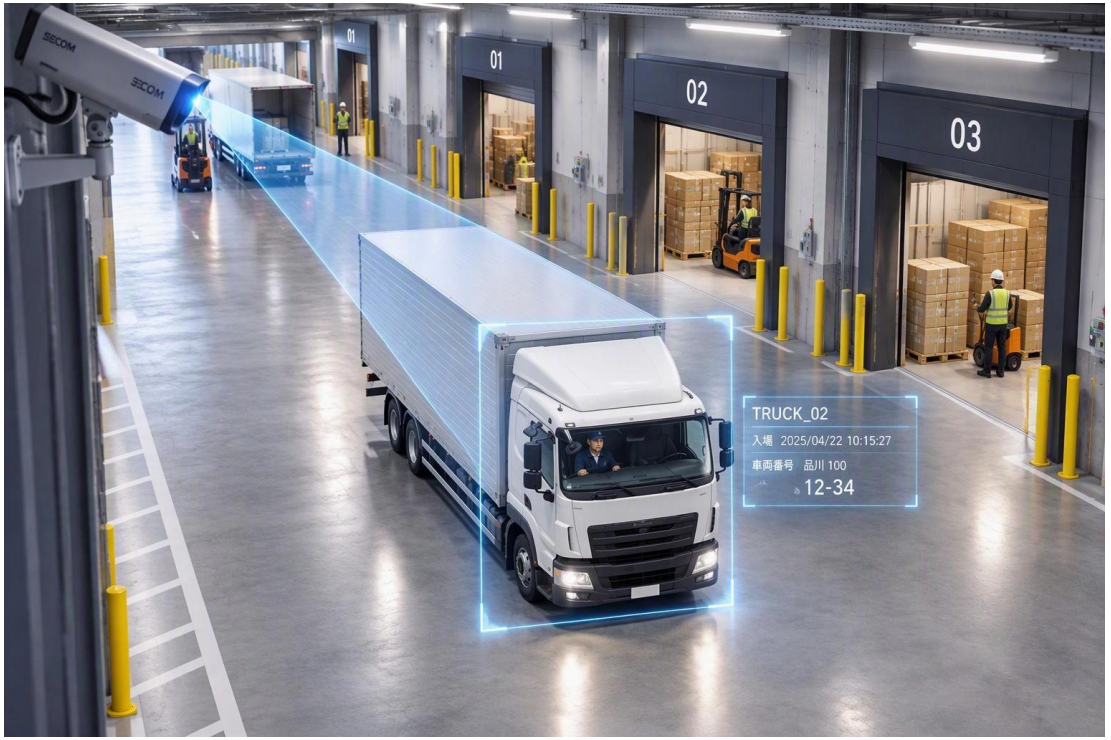
高精度3次元地図データと施設管理システムを連携し、目的地バースへの施設内誘導を検証

インフラカメラの周辺車両情報を活用し、死角部等での安全走行を支援。予約・駐車管理を含むモビリティハブの運用モデルを構築・検証

事業イメージ



【目的地情報による「施設内誘導」】



【インフラカメラによる「安全走行支援」】

参画企業: 大和ハウス工業、当社、Hacobu

採択事業：国土交通省 令和8年度「自動運転トラック実装支援事業」、案件名：「物流施設・モビリティハブにおける自動運転車両の受け入れ・運用に関する実証事業」

物流自動化事例③: 自動物流道路の実装を支援

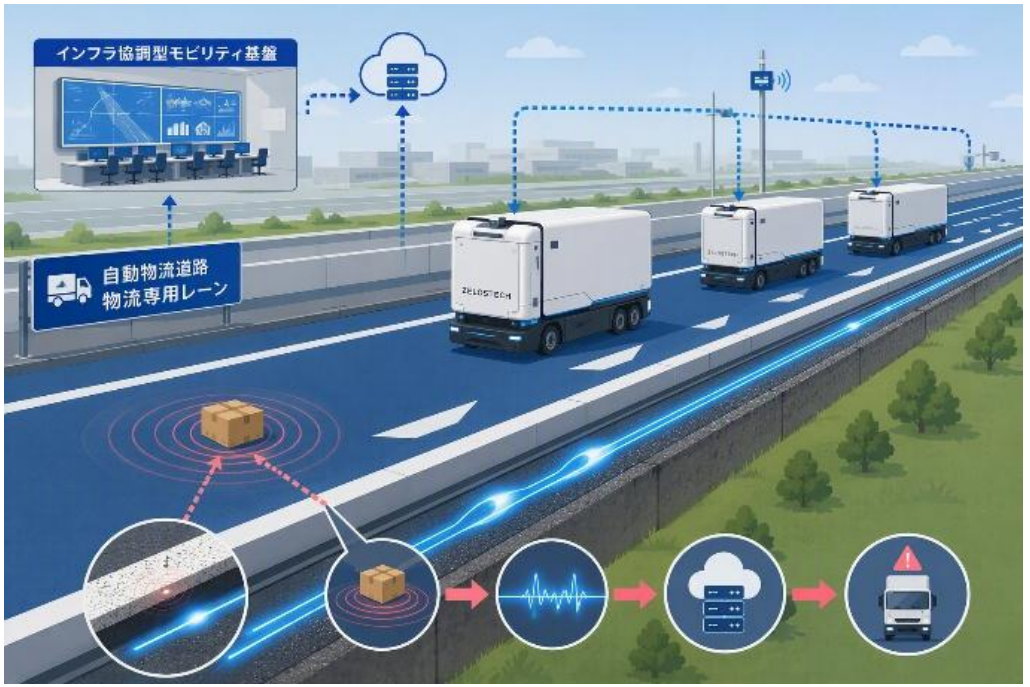
複数台の自動運転車両による追従・分流・合流等の走行性能を検証

光ファイバセンシングによる道路側設備の簡素化を検証。当社が提供する情報連携基盤で検知情報と高精度地図を統合･配信し、安全かつ安定した走行を支援

自動運転車両のイメージ



実証のイメージ



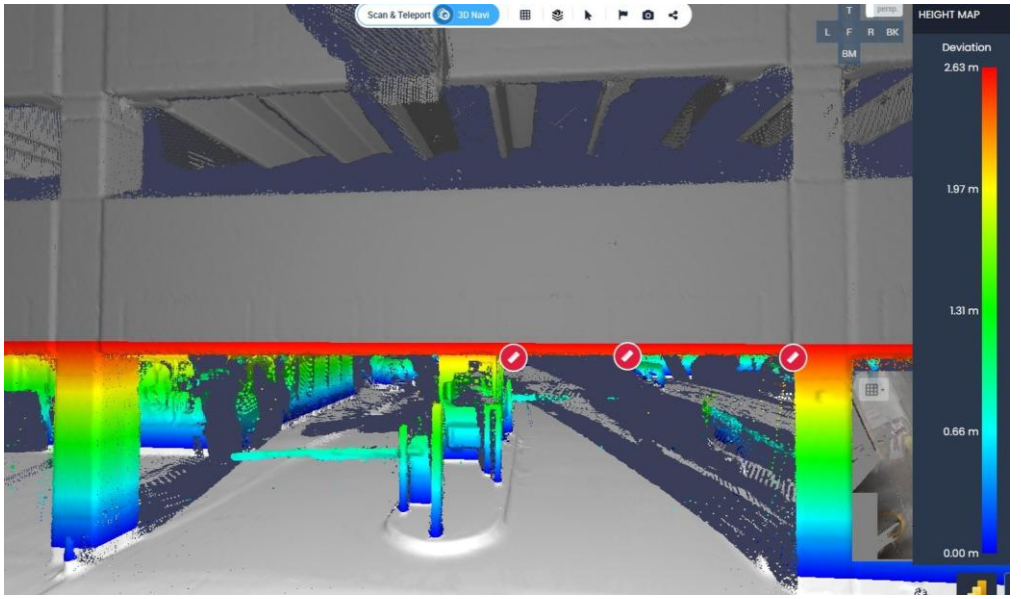
参画企業: 鹿島建設、当社、三菱電機、西濃運輸

採択事業：国土交通省「令和8年度 自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」、実証テーマ：テーマ2「複数台の搬送機器の自動走行」

北米事例①: 米国州政府の道路･交通インフラ管理機関向け

米国交通当局向けに橋梁・トンネル管理ソリューションの提供を開始
高精度3次元データにより、インフラの点検・管理業務の効率化を支援





課題

特殊車両向けの高さ制限箇所の把握が困難

- 高さの現地調査は難しく、時間と費用がかかる
- 更新の手間も大きく、道路工事で高さが変わると接触事故を招く

解決策

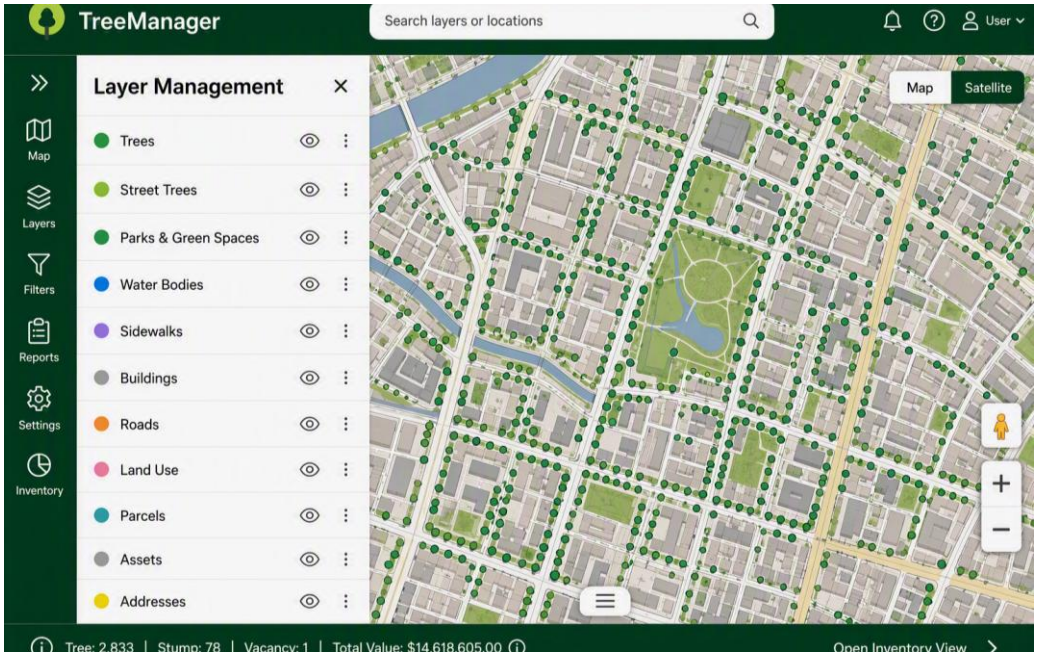
高精度3次元データでインフラをデジタル化

- 構造物の幅全体の高さを高精度に可視化
- GIS／アセット管理システムと連携
- 走行しながら計測でき車線規制が不要

北米事例②: 植栽管理会社、都市樹木管理事業者向け

樹木管理業務の効率化と維持管理コスト削減を実現

樹木を“グリーンアセット”として可視化し、樹木管理業務の効率化と持続的な都市環境管理を支援





課題

人手での樹木の状態管理に膨大な工数が発生

- 現地調査に多くの時間とコストが必要
- 樹木の状態や張り出し状況の把握が困難
- 整備・伐採の優先順位付けが難しい
- 樹木台帳の整備・更新に多くの工数が必要

解決策

3Dモデル化によりデジタルで計画策定

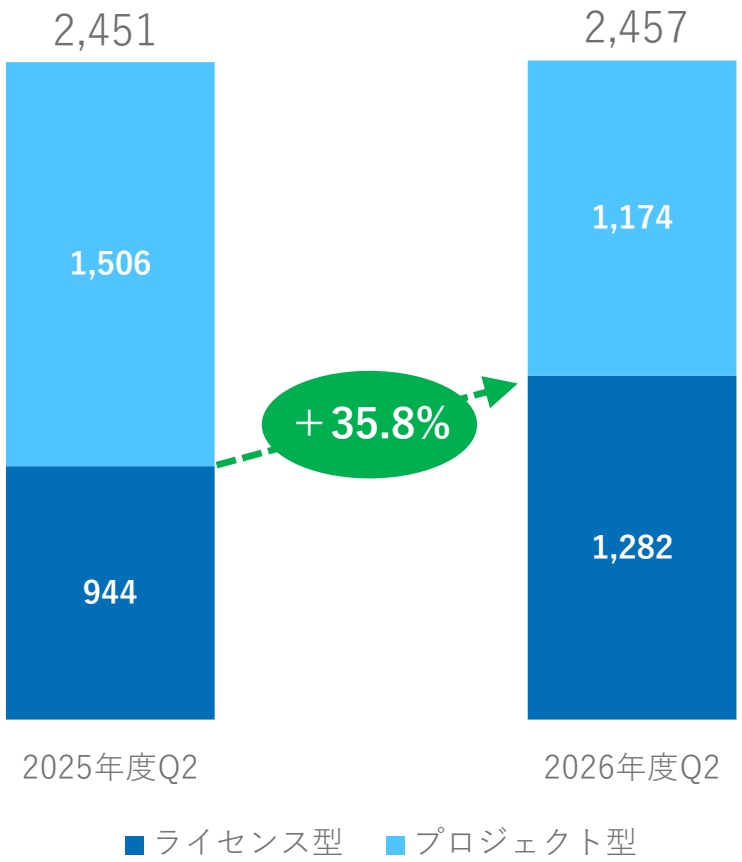
- 位置情報を把握し台帳整備を効率化
- 高さ・張り出しを可視化し伐採対象を抽出
- データに基づく維持管理計画を実現

ライセンス型売上は前年同期比36%増、売上高は前年同期並み、調整後EBITDAは反動減

法人ライセンス案件を中心にライセンス型売上が拡大。前年同期比36%増

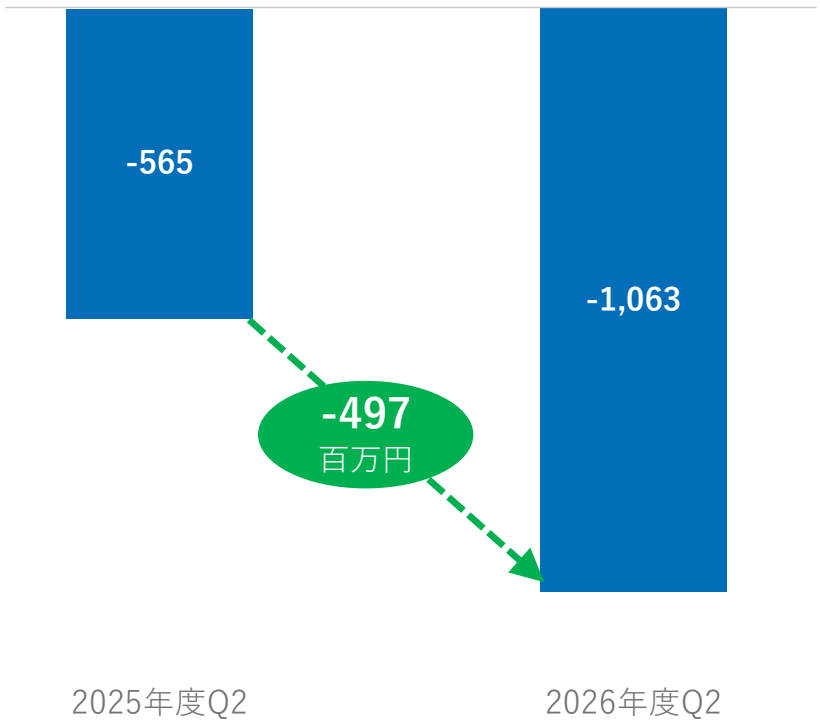
売上高は前年同期並みとなる一方、北米の新規データ整備案件完了に伴うプロジェクト型売上および利益寄与の反動等により、調整後EBITDAは前年同期を下回る

売上高（単位：百万円）



注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、各項目の合計が合計欄の数値と一致しない場合があります

調整後EBITDA（単位：百万円）



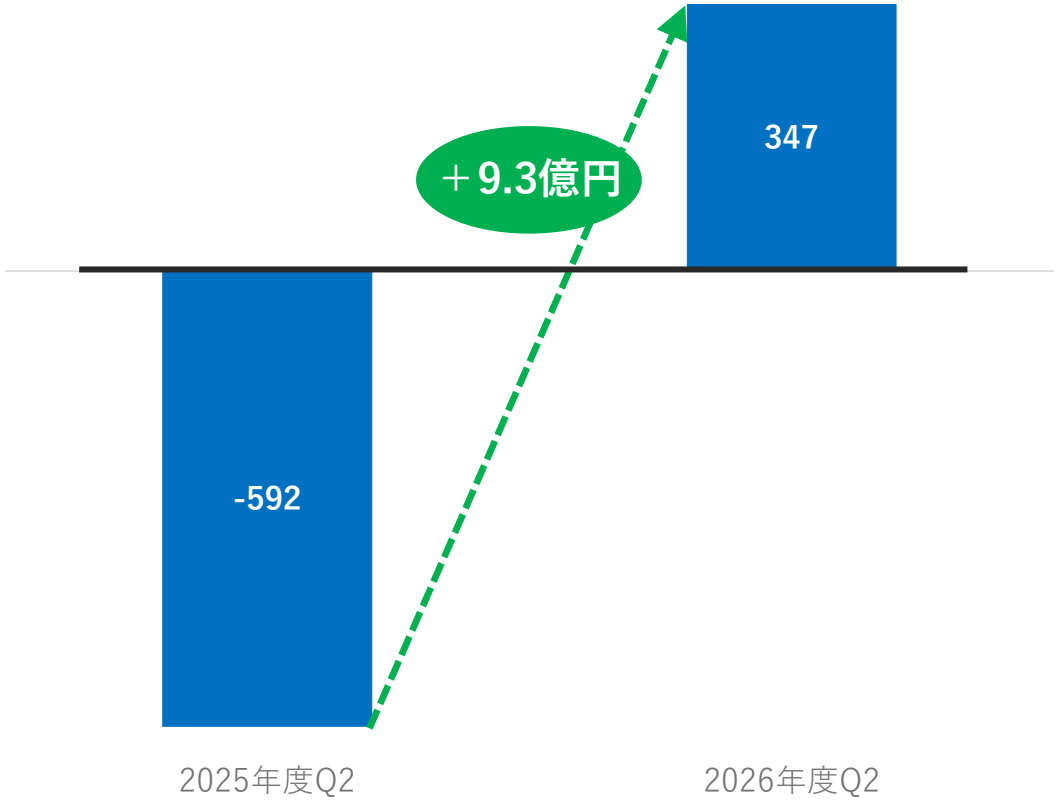
注：調整後EBITDA＝

EBITDA（営業利益＋減価償却費（のれん償却額含む））＋政府補助金（営業外収益に計上される）＋M&A関連費用

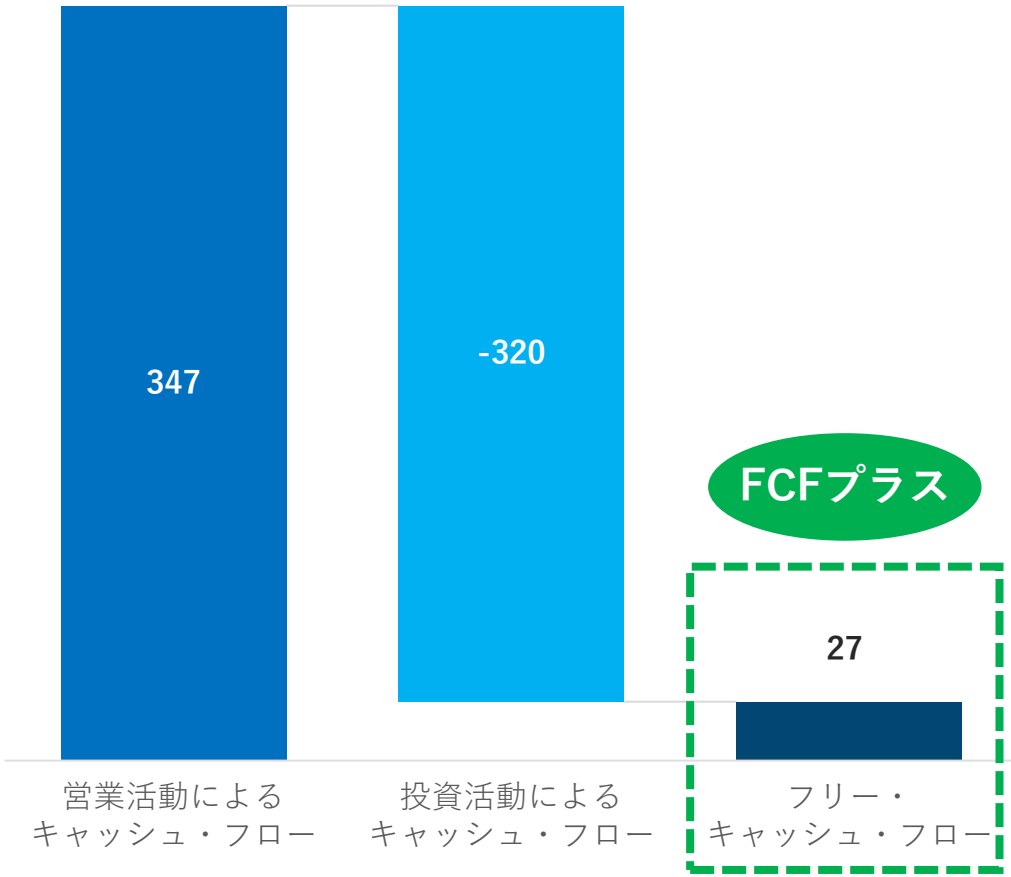
営業キャッシュ・フローはプラス転換、成長投資を継続しながらFCFプラス化

売上債権の回収等により営業キャッシュ・フローはプラス転換
新規データ整備やM&Aを含む成長投資を継続しながら、フリー・キャッシュ・フローもプラスに転換

営業活動によるキャッシュフロー（単位：百万円）



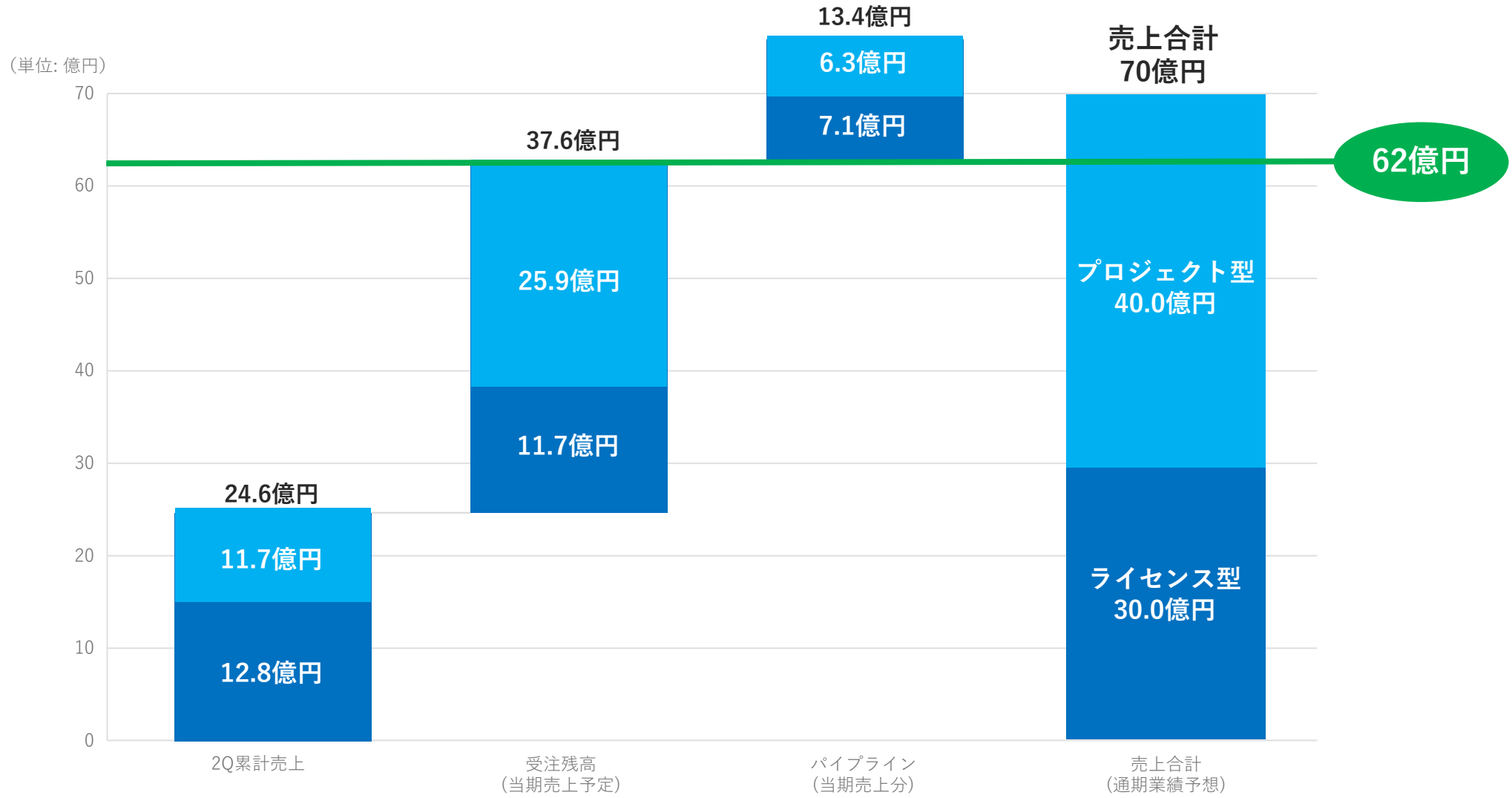
フリー・キャッシュ・フロー（単位：百万円）



通期業績予想の達成に向け、受注済み案件の遂行と追加案件獲得に注力

法人ライセンス案件を中心にライセンス型売上受注を積み上げ

海外におけるオート及び3Dプロジェクト、国内3Dプロジェクト受注が進展。今期売上の最大化に向けて、案件遂行に注力

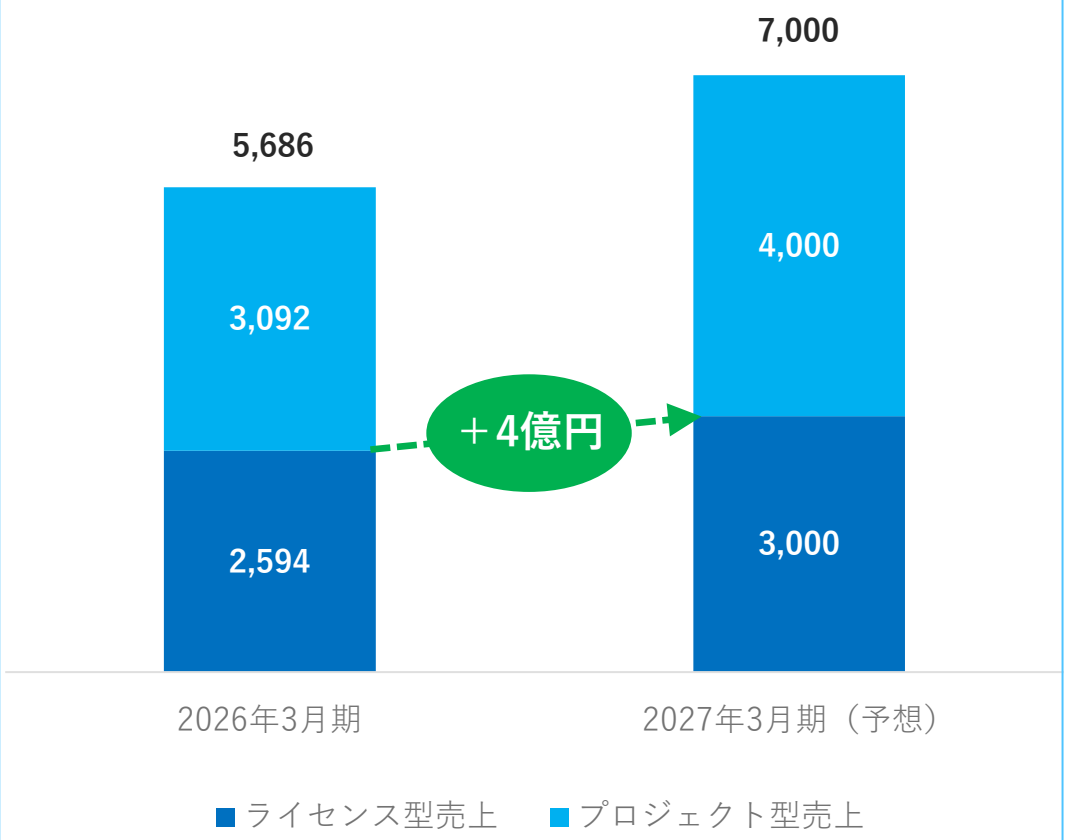


調整後EBITDA通期プラス化へ

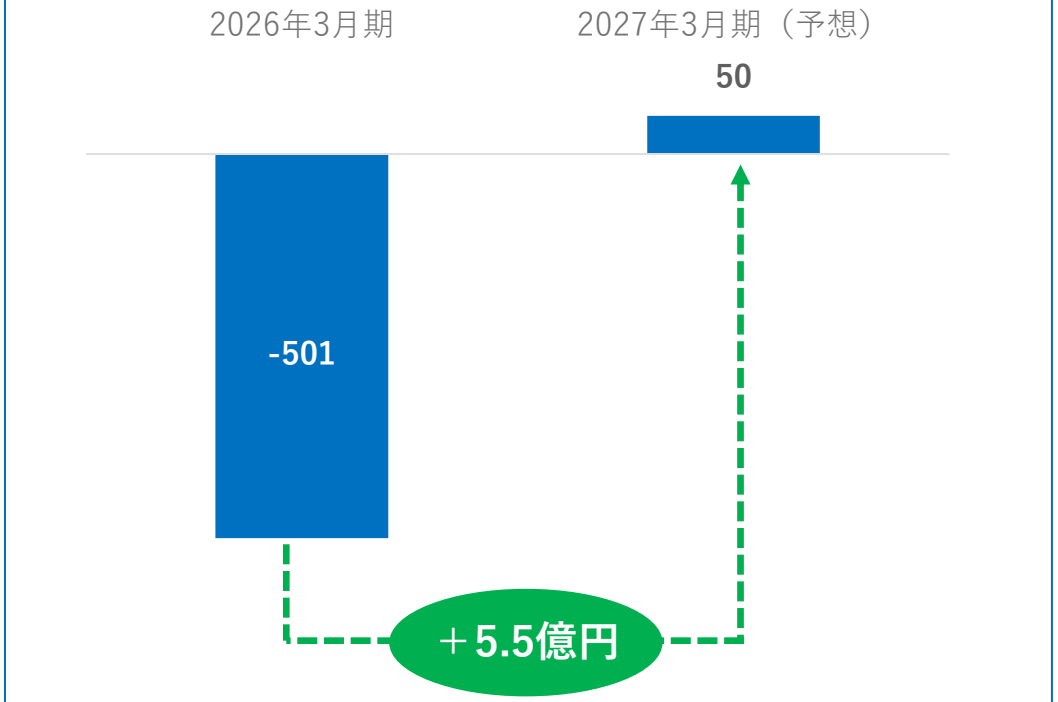
上期実績と足元の受注状況を踏まえ、通期業績予想を据え置き

下期は受注済み案件の売上計上、ライセンス型売上の積み上げ、コスト管理を通じ、調整後EBITDAの通期プラス化を目指す

売上高（単位：百万円）



調整後EBITDA（単位：百万円）



事業環境と取り組み方針 - AIネイティブなデータ・商品開発を強化、法人ライセンス拡大

フィジカルAIの需要に応える「AIネイティブ」なデータ・商品開発を強化
引き続き、高収益ライセンスビジネスの拡大、測量会社のロールアップ型M&Aに注力

事業環境

- 自動運転を含むフィジカルAIの急速な進展・市場拡大
- 産業界におけるAI関連投資の裾野拡大
- 地政学的リスクの高まり、原油価格高騰による、自動車業界への業績影響



27年3月期の取り組み方針

AIネイティブデータ



ライセンスビジネス拡大



M&A



「AIネイティブ」なデータ・商品開発を強化（Data for AI）

- AI学習・推論・検証といった用途において、顧客が即時利用可能な「AIネイティブ」データ・商品の開発を推進
- 商品力向上によるデータ需要の拡大・捕捉

高収益ライセンスビジネスの拡大に注力

- オート量産ライセンス・オート法人ライセンス、3Dライセンス売上拡大
- フィジカルAIの進展による「Data for AI」需要を捕捉

グロース戦略としてM&Aへの取り組み継続

- 測量会社ロールアップを通じて、フィジカルAI時代を支える測量能力強化
- データ利用拡大を促す「川下」領域のM&Aにも取り組み

法人ライセンスが成長を牽引、プロジェクト型では案件遂行と追加獲得を推進

ライセンス型: AI用途の法人ライセンスが引き続き牽引。量産ライセンスは新車種への搭載含め台数成長。3Dデータは既存プロダクトの拡販に加え、フィジカルAI需要の取り込みに注力

プロジェクト型: ライセンス型売上拡大の基盤整備として、政府・民間案件、新規データ整備を推進

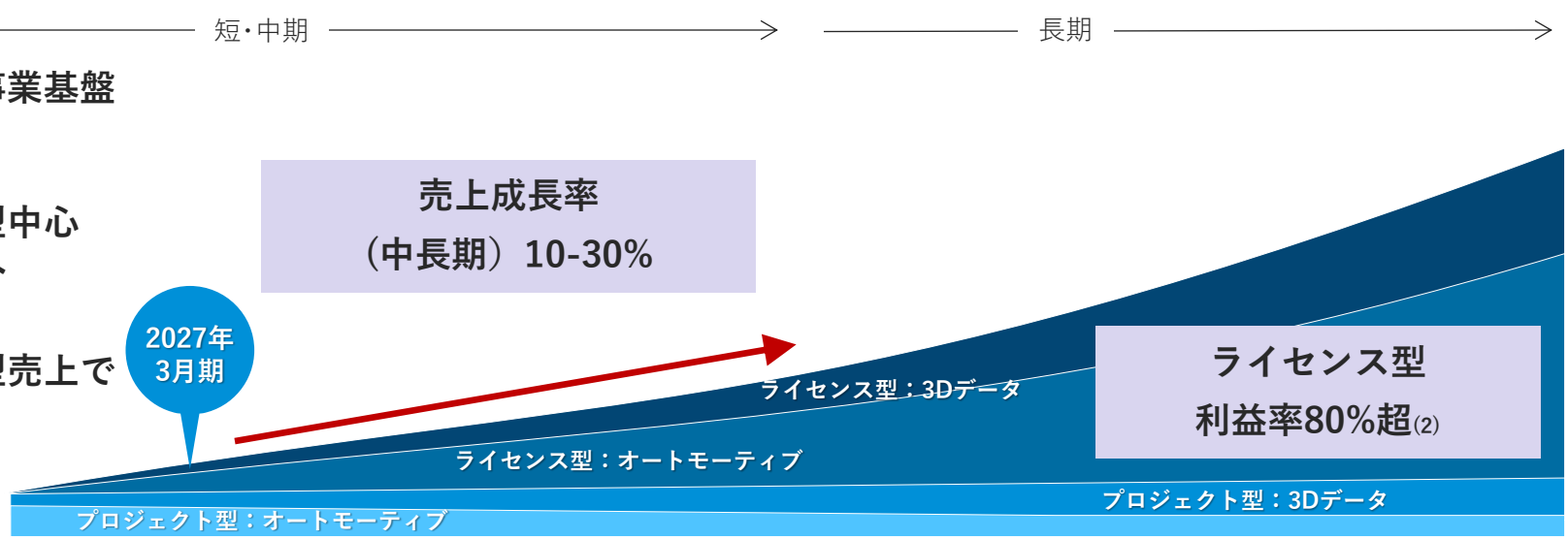
カテゴリー		2027年3月期注力する取り組み	進捗	
ライセンス型	オートモーティブ 法人ライセンス	• **AI用途**: 大手自動車メーカー、半導体メーカー、自動運転システム開発会社より、引き続き旺盛な需要あり。サブスクリプション型/リカーリング型モデル構築へ • **規制対応**: 各国で施行される安全規制対応のデータ需要増	• 海外大手半導体メーカーからの追加受注 • 自動運転トラック向けデータ提供 • Data for AI商談進展、1号案件受注	○~◎
	オートモーティブ 量産ライセンス	• **搭載台数成長**: 計6社/39車種に当社データ搭載済。搭載済車種の台数成長に加え、新規車種への搭載・台数増加を見込む	• 搭載済車種の販売台数成長 • 新規車種への搭載が進展	○
	3Dデータ ライセンス	• **拡販**: インフラ管理（3Dmapspocket®等）、ガイダンス（SRSS[1]、空港内等）、データ連携システム商品の販売拡大。パートナー経由のデータ販売拡大 • **フィジカルAI需要**: AIネイティブなデータ・商品を提供、Data for AI需要捕捉	• インフラ管理、不動産開発における利用拡大。本格的な売上貢献に向け、顧客・用途の拡大を推進 • 非自動車分野におけるAIネイティブデータの需要を探索	△
プロジェクト型	3Dデータ プロジェクト	• **政府向け**: 国の政策・方針に沿った自動化・デジタル基盤・防衛/防災分野での取り組み。社会実装に向けて関係省庁等と連携 • **民間向け**: 物流・空港向け等、「民間主導の自動化投資」需要に対応 • **測量会社**: グループ内測量会社と連携した新分野への取り組み（ドローン測量等）	• 政府・民間向け案件を順次契約・遂行 • グループ内測量会社との連携による売上・利益貢献が進展 • 海外案件受注、引き合い増加	○
	オートモーティブ プロジェクト	• **海外**: 新規国における整備案件を受注済	• 新たな国・地域における整備案件を受注 • 受注27ヶ国目案件遂行中 • 受注28か国目案件を開始	○~◎

1: Snow Removal Support System （除雪支援システム）

粗利率80%超のライセンス型を伸ばし中長期で成長率10-30%で成長を続ける

成長の為の事業基盤構築が完了、ライセンス型中心の収益構成へ
投資回収フェーズへ移行

成長イメージ 収益構成



カテゴリー別施策

3Dライセンス	販売パートナーを通じた拡販	海外展開・用途拡大
車載ライセンス	新規顧客数拡大 既存顧客の搭載車種拡大	新規搭載台数+累積搭載台数増加による成長の加速
法人ライセンス	AI用途法人ライセンスの拡大	
3Dプロジェクト	ライセンス商品開発を目的に案件受託	
オートプロジェクト	データ更新継続・需要に応じて新規整備	

注：(1) 記載の収益推移はイメージであり、達成を保証するものではありません　　注：(2)案件単位の限界利益率。限界利益率は目安であり、将来の水準を保証するものではありません。

04

パイプラインアップデート

ライセンス型ビジネス（オートモーティブ）

搭載車種増加に加え、自動運転・ADASへのAI利用が進行する流れにおいて当社データへの需要を見込む

計6社/39車種に当社データ搭載済。海外大手半導体メーカー向けに、北米データの提供実績を踏まえ、欧州・韓国・日本データを追加受注。自動運転トラック開発会社向けにデータ提供。AIネイティブデータを大手テクノロジー企業に提供

主なパイプライン(1) (2) (3)

量産ライセンス　法人ライセンス　契約済み　RFQ(4)　RFI(5)　商談中(6)　更新箇所

	契約形態	顧客	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
量産ライセンス	単価×数量（台数）	自動車メーカー　A	1.6億円	3.0億円	7.1億円	21.3億円			
		自動車メーカー　B	4.9億円	5.0億円	5.0億円	59.9億円			
	単価：固定	自動車メーカー　C/D/E/F							
	数量：顧客ヒアリングに基づく見積もり	自動車メーカー　G			1.1億円	20.5億円			
		自動車メーカー　H/I/J							
		自動車メーカー　K/L/M							
法人ライセンス	固定金額での契約	海外大手地図メーカー							
		海外大手半導体メーカー							
		海外大手半導体メーカー							
		大手自動車メーカーグループ							
		大手自動車メーカーグループ							
		大手自動車メーカーグループ							
		大手車載システムメーカー							
		自動運転システム開発会社							
		自動運転システム開発会社							
		自動運転システム開発会社							
		自動運転システム開発会社							
		自動運転トラック開発会社							
		自動運転トラック開発会社							
		大手テクノロジー企業							

注：(1) これらのパイプラインに記載の金額はあくまで契約に基づく単価と顧客ヒアリングに基づく販売台数見積りにより想定される収益見込み金額であり、実際の販売台数が見積りを下回った場合には、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 為替レートはFY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25は149.71円/ドル、FY26以降は145円/ドルで計算。(3) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(4) Request For Quotation: P49の注参照。(5) Request For Information: P49の注参照。(6) 商談中: P47の注参照。

ライセンス型ビジネス（3Dデータ）

グローバルデータ資産を活用し、インフラ管理･不動産･シミュレーション･ゲーム等へ用途が拡大
販売パートナーを通じたデータ提供も進み、パイプラインの積み上げに注力。今冬向け除雪支援について順次契約

主なパイプライン(1)

Guidance商品 / Viewer商品 / データ連携システム / 法人データライセンス / 契約済み / 商談中(2) / 更新箇所

顧客	事業内容	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
地方自治体	除雪	■	■	■	■	■	■	■
大手損害保険会社･事故調査会社	事故調査	■	■	■	■	■	■	■
大手不動産会社	不動産開発				■	■	■	■
物流事業者･空港･港湾	データ連携システム					■	■	■
大手道路管理会社	インフラ管理	■	■	■	■	■	■	■
海外州政府	V2X		■	■	■	■	■	■
海外州政府	インフラ管理				■	■	■	■
海外ソフトウェア会社	シミュレーター、産業用			■	■	■	■	■
ソフトウェア会社	レーシングゲーム				■			

販売パートナーを通じたデータ拡販

- **PTV Group**の交通シミュレーションプラットフォームを通じ、当社高精度3次元データを提供
- **Apex Studio**向けにレーシングゲーム用途で高精度3次元データを提供





3Dmapspocket®の利用拡大

- 不動産開発における眺望･景観･配置検討等シミュレーション利用が拡大。**東京建物、三井不動産レジデンシャル等**大手が採用

今冬の除雪支援システム提供に向け、自治体と順次契約

- 今冬のサービス提供に向けた**自治体との契約が進展**
- これまでの導入実績を基盤に、提供地域･利用規模のさらなる拡大を目指す

注： (1) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(2) 商談中:「契約済み」に至るまでの様々な段階で交渉が継続している状況を指します。パイプラインによっては具体的な諸取引条件について明確になりつつあるものも含まれますが、いずれも法的拘束力のある契約の締結には至っておらず、今後の契約締結及び収益計上について何ら保証されるものではありません。

プロジェクト型ビジネス（3Dデータ）

DYNAMIC MAP PLATFORM

日本政府との強い関係性に裏付けされた、3Dデータビジネスにおける複数の国家プロジェクト受託実績
民間主導の自動化投資拡大の動きを受けて民間企業との案件増加。海外における需要も捕捉

主なパイプライン（2023年以降売上計上分） (1)

契約済み　商談中(2)　更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
固定金額での契約	NEDO	グリーンイノベーション基金	6.8億円	3.2億円					
	デジタル庁	モビリティ分野における産業用データ連携基盤整備	2.7億円						
	NEDO	デジタルライフライン		14.6億円					
	経産省	Bridge公共エリア向けダイナミックマップ	1.0億円	2.1億円	2.1億円				
	経産省	高精度3次元地図データに関する国際標準化	1.3億円						
	総務省	V2N 通信実証							
	国土交通省	海外スマートシティ支援							
	国土交通省	空港・港湾自動化							
	官公庁	防災・防衛関連（技術研究）							
	政府機関	農業自動化（実証）							
合計金額：固定	政府基金/民間企業	宇宙ビジネス関連プロジェクト							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	民間企業	物流自動化に向けた取組							
	海外州政府	インフラ管理							
	海外民間企業	デジタルツイン向けデータ提供							
	海外民間企業	都市樹木管理							

国の政策・方針に沿った取り組み
社会実装に向けて
関係省庁、民間企業と連携

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 商談中: P47の注参照。

プロジェクト型ビジネス（オートモーティブ）

DYNAMIC MAP PLATFORM

安定した収益を確保し自己負担を軽減しながら、事業基盤であるHDマップカバレッジを拡大

新たな国・地域での新規整備を受注、整備を進める。整備済みの国・地域での更新整備も継続的に受注

自動運転トラック開発会社向けデータ整備案件の商談進む

主なパイプライン（2023年以降売上計上分） (1) (2) (3)

契約済み　RFQ(4)　RFI(5)　商談中(6)　更新箇所

契約形態	顧客	プロジェクト	FY23	FY24	FY25	FY26	FY27	FY28	FY29
契約で定める固定金額での受注 複数年度に渡る合計金額：固定 各年度への配分：売上実績及び当社見積り	自動車メーカー	新規整備	7.2億円						
		新規整備	6.7億円	18.0億円	7.3億円				
		新規整備	0.6億円	0.03億円	4.0億円	5.1億円			
		新規整備	2.2億円	0.9億円					
		新規整備	3.4億円						
		新規整備				8.7億円			
		新規整備							
		新規整備							
		新規整備							
		新規整備							
		更新整備	10.2億円	13.2億円	13.0億円	12.8億円	継続的に受注		
	自動運転システム開発会社	新規整備							

代表的な案件

自動車メーカーを顧客としたHDマップ整備

- 米国、欧州等の主要道路をHDマップとして整備し、カバレッジ距離に応じた収益を獲得
- 既存地域での追加整備に加えて、新規地域で継続した取引を予定
- 更新整備についても、継続して安定的な収益を獲得

注：(1) これらのパイプラインはあくまで契約に基づいて想定される収益見込み金額であり、記載の図の通りに推移しない可能性があります。(2) 契約済みかつ金額非開示のものについては、顧客との取り決めにより開示を差し控える。(3) 為替レートはFY23は140.56円/ドル、FY24は151.58円/ドル、FY25は149.71円/ドル、FY26以降は145円/ドルで計算。(4) Request For Quotation: 顧客からの見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該見積依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該見積依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。一般に、自動車業界においては数年先のサービス提供開始を見据えて開発契約や生産計画が検討されることが多く、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）を受ける時点においては当該パイプラインの具体性が高まっている状況にあると考えられるものの、見積依頼書に対して回答を行った取引内容や販売条件等がその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(5) Request For Information: 顧客から情報提供依頼書（RFI：Request for Information）を受領し、その回答を行っている状況を指し、当該情報提供依頼書や回答自体には法的拘束力はなく当該情報提供依頼書や回答に基づく契約が将来締結される保証はありません。すなわち、「RFI：Request for Information」の段階は、見積依頼書（RFQ：Request for Quotation）受領に至る前段階であり、当該情報提供依頼書への回答で行われた取引内容や販売条件等は「RFQ：Request for Quotation」及び「契約済み」に進捗する段階においてその後変更または失注となり、当社グループが想定する収益につながらない可能性があります。(6)商談中: P47の注参照。

Modeling the Earth

高精度3次元データプラットフォーマーとして様々な情報を集約
分析・制御・予測が可能な世界を実現し、社会課題解決に資する
イノベーションを実現



05

Appendix



連結損益計算書

連結損益計算書

（単位: 百万円）

	2026/3期 Q2累計	2027/3期 Q2累計	増減
売上高	**2,451**	**2,457**	**＋5**
売上原価	2,242	2,876	＋633
売上総利益	**209**	**(419)**	**▲628**
販売費及び一般管理費	1,351	1,342	▲8
営業利益（損失）	**(1,142)**	**(1,761)**	**▲619**
営業外収益	133	99	▲34
営業外費用	65	47	▲17
調整後EBITDA	**(565)**	**(1,063)**	**▲497**
経常利益（損失）	(1,073)	(1,709)	▲636
特別利益	-	20	＋20
特別損失	-	32	＋32
税金等調整前当期純利益（損失）	(1,073)	(1,721)	▲647
法人税等合計	91	3	▲87
当期純利益（損失）	**(1,165)**	**(1,725)**	**▲560**
非支配株主に帰属する当期純利益（損失）	(1)	(1)	＋0
親会社株主に帰属する当期純利益（損失）	(1,163)	(1,723)	▲560

（セグメント別売上高、重要な経営指標等）

売上高	**2,451**	**2,457**	**＋5**
国内売上高	647	330	▲317
海外売上高	1,804	2,126	＋322
プロジェクト型売上高	1,506	1,174	▲332
ライセンス型売上高	944	1,282	＋338

営業利益（損失）	**(1,142)**	**(1,761)**	**▲619**
減価償却費	439	595	＋156
のれん償却費	-	12	＋12
補助金収入	126	88	▲38
M&A関連費用	10	2	▲8
調整後EBITDA	**(565)**	**(1,063)**	**▲497**

研究開発費	211	49	▲161

営業外収益
補助金収入　88百万円

特別利益
負ののれん

特別損失
令和8年熊本地震の影響を受けた道路に係る地図データの再計測・再作成に備え、将来発生が見込まれる費用を災害損失引当金として計上。現時点ではキャッシュアウトを伴っておらず、具体的な実施内容および支出額は今後の状況に応じて確定。

連結貸借対照表/連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表

（単位: 百万円）

	2026/3末	2026/9末	増減
資産			
現金及び預金	3,658	3,813	＋155
その他	2,953	2,014	▲938
流動資産合計	**6,611**	**5,828**	**▲782**
有形固定資産	623	557	▲65
無形固定資産	3,532	3,482	▲49
投資その他の資産合計	121	127	＋5
固定資産合計	**4,277**	**4,167**	▲109
資産合計	**10,889**	**9,996**	**▲892**
負債・純資産			
一年内返済予定の長期借入金	725	228	▲497
その他	1,888	2,364	＋475
流動負債合計	**2,614**	**2,592**	**▲21**
長期借入金	780	1,424	＋644
その他	264	290	＋25
固定負債合計	**1,045**	**1,714**	＋669
負債合計	**3,659**	**4,307**	**＋648**
資本金	100	10	▲90
資本剰余金	11,054	11,156	＋102
利益剰余金	(4,181)	(5,905)	▲1,723
株主資本合計	**6,972**	**5,260**	**▲1,711**
為替換算調整勘定	232	404	＋171
その他包括利益累計額合計	**232**	**404**	**＋171**
新株予約権	**19**	**19**	**-**
非支配株主持分	**4**	**3**	**▲1**
純資産合計	**7,229**	**5,688**	**▲1,540**
負債・純資産合計	**10,889**	**9,996**	**▲892**

コミットメントライン契約
金融機関２社より、借入極度額計2,000百万円

長期借入金
2025年10月、既存借入700百万円を借換
（期間10年元金均等返済）

2026年1月、200百万円を新規借入
（期間7年元金均等返済）

2026年4月、310百万円を新規借入
（期間5年元金均等返済）

2026年5月、500百万円を新規借入
（期間3年元金均等返済）

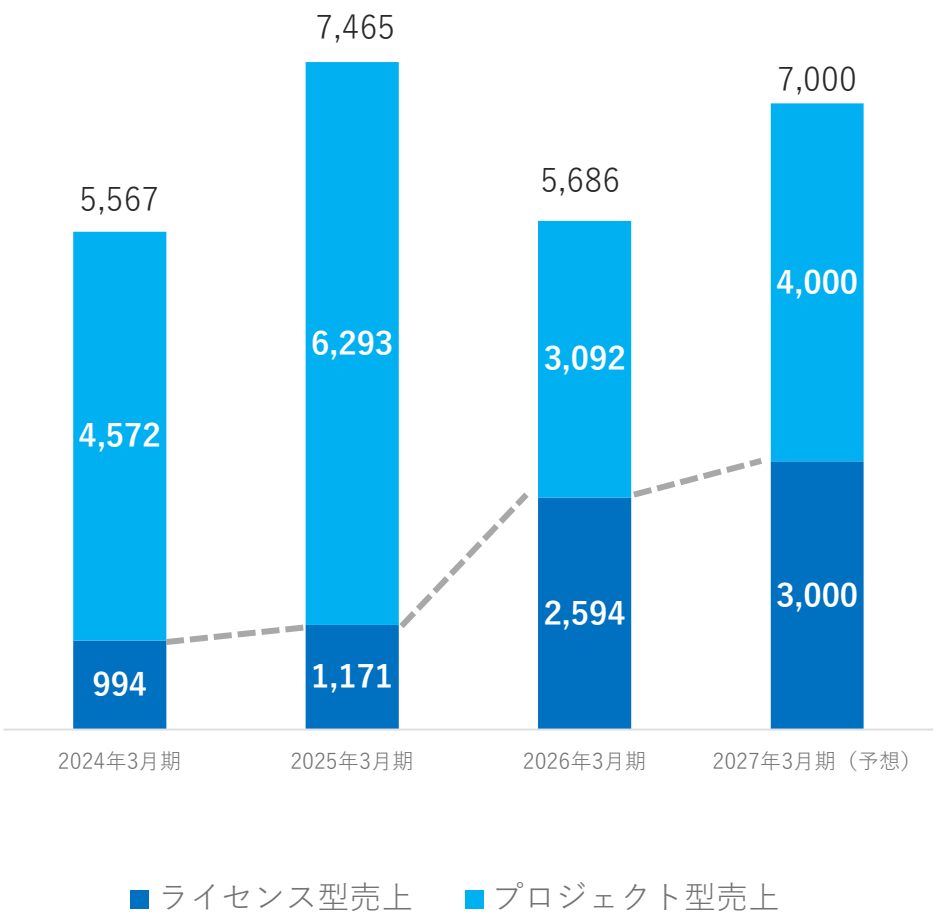
連結キャッシュ・フロー計算書

	2026/3期 Q2 累計	2027/3期 Q2 累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	**(592)**	**347**	**＋939**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**(882)**	**(320)**	**＋561**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**(1,942)**	**118**	**＋2,061**

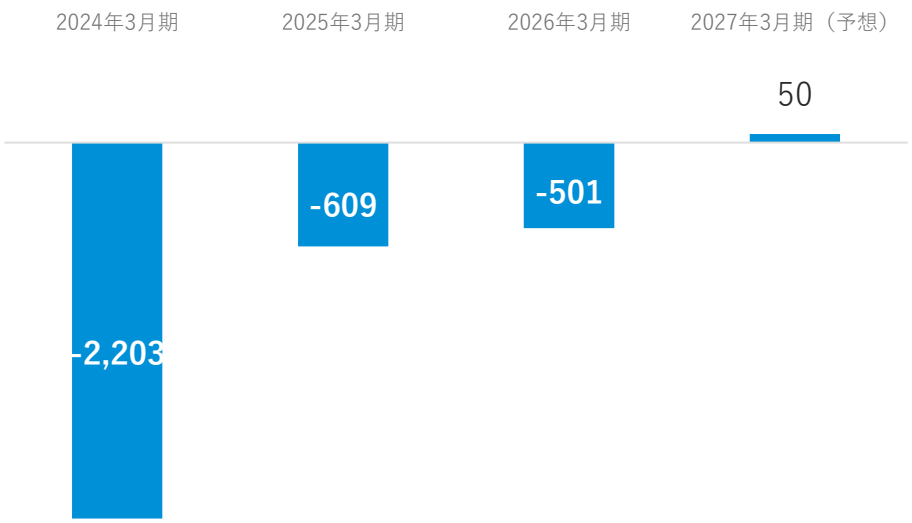
売上債権・契約資産の回収等により営業キャッシュ・フローが改善し、データ資産への投資や測量会社の子会社化などの成長投資を継続しながら、フリー・キャッシュ・フローはプラスに転換

売上高・調整後EBITDAの推移

売上高（単位：百万円）



調整後EBITDA（単位：百万円）

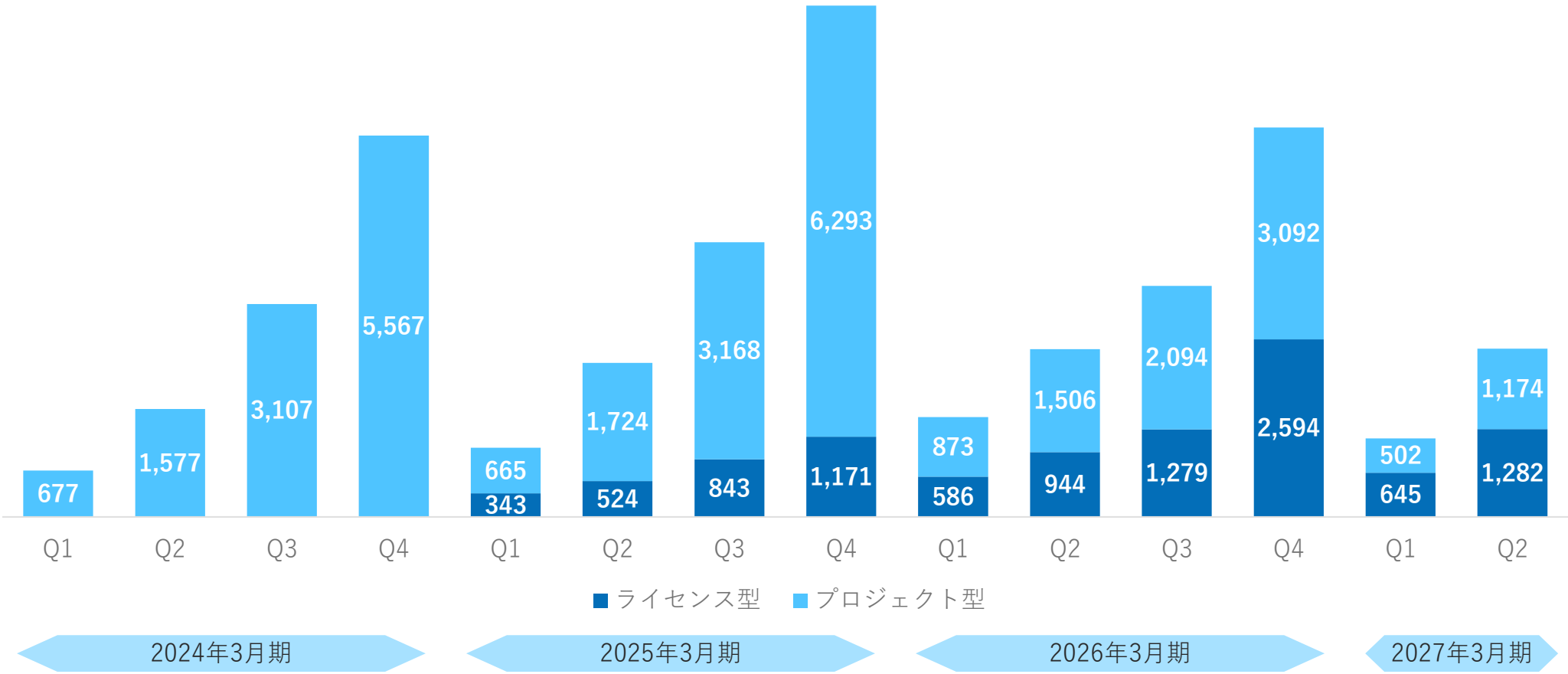


注：調整後EBITDA＝

EBITDA（営業利益＋減価償却費（のれん償却額含む））＋政府補助金（営業外収益に計上される）＋M&A関連費用

連結業績 四半期累計売上高推移

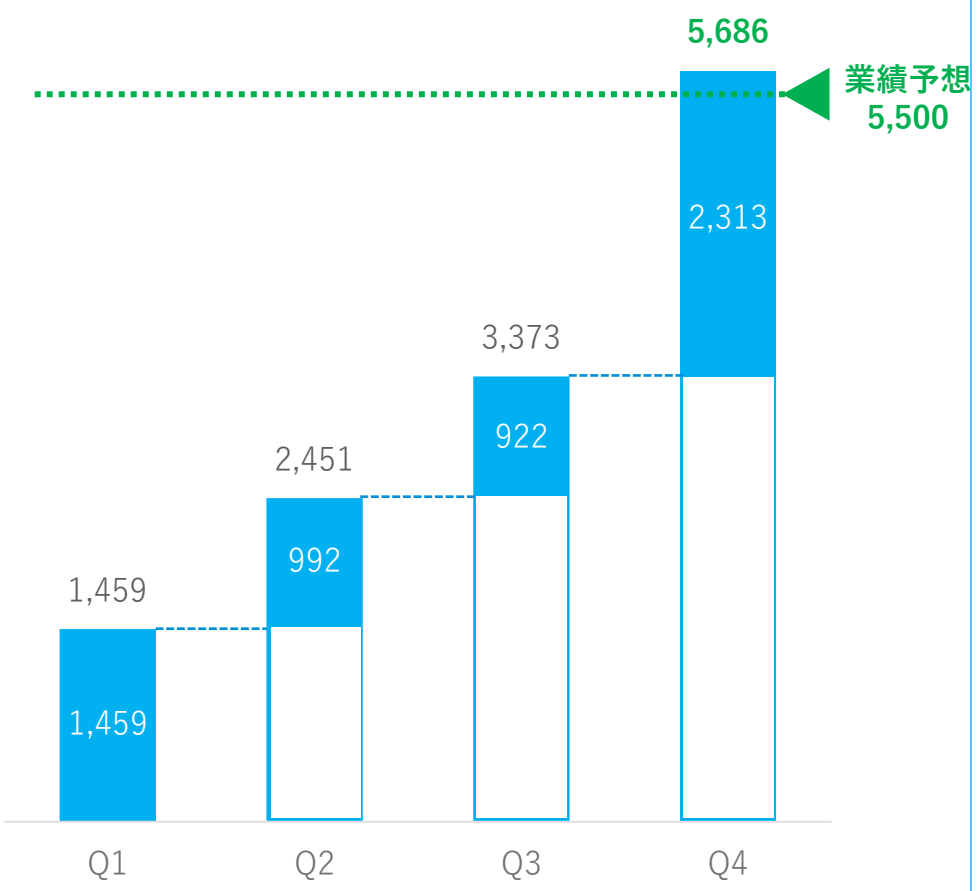
四半期累計売上高（単位：百万円）



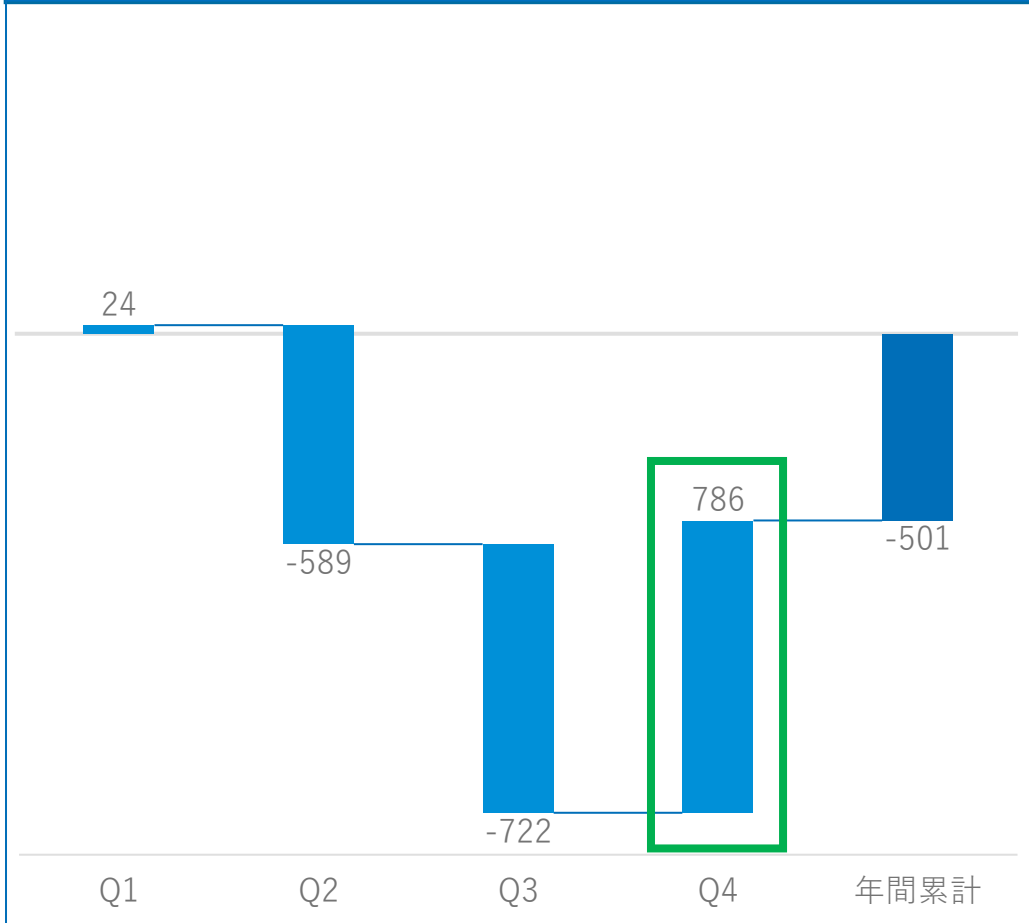
連結業績 2026年3月期 四半期累計売上高・四半期会計期間別調整後EBITDA推移

第4四半期に法人ライセンス案件を中心に23億円の売上を計上
調整後EBITDAも第4四半期に大幅改善し8億円のプラス、前年比改善し着地

累計売上高（単位：百万円）



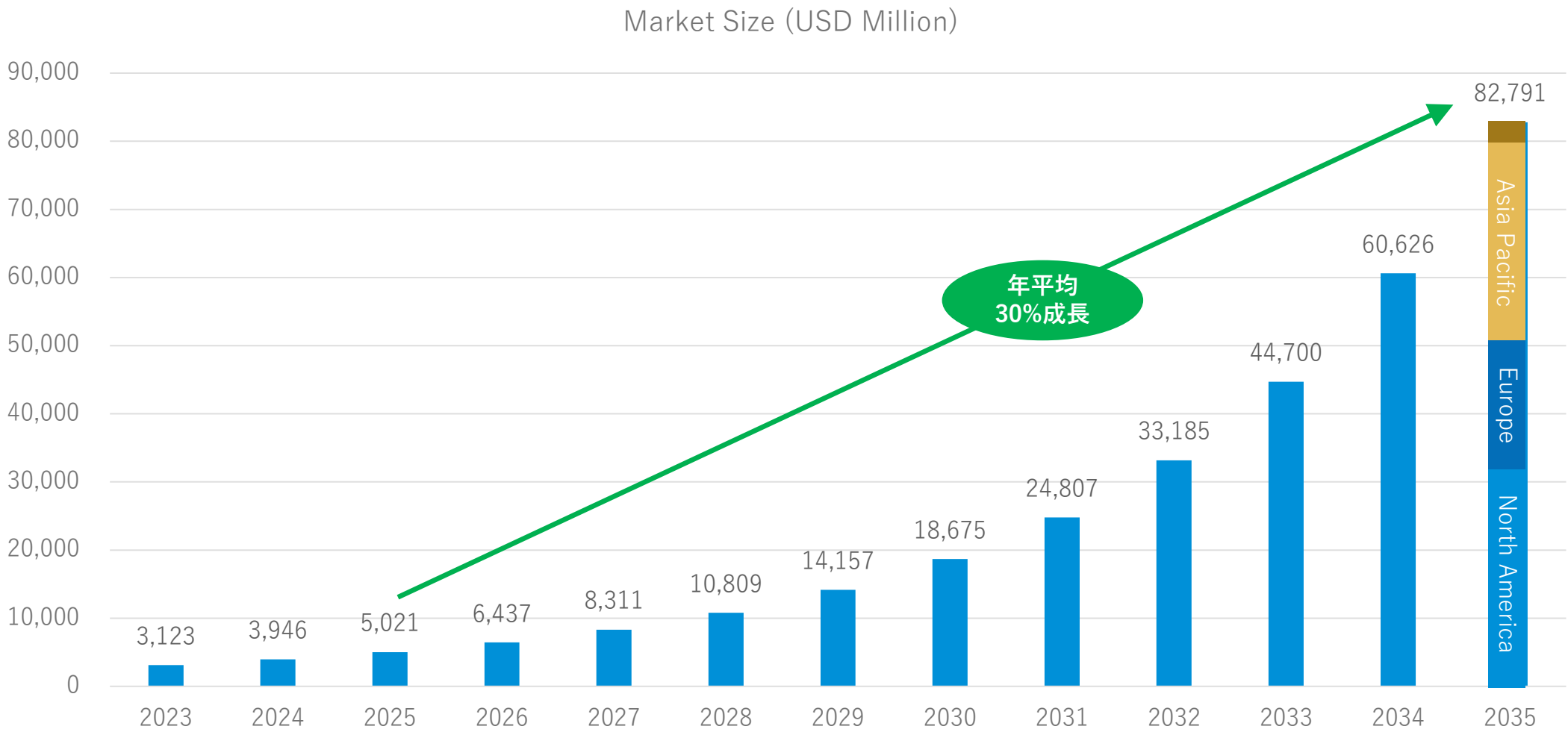
四半期会計期間別 調整後EBITDA（単位：百万円）



注：調整後EBITDA＝
EBITDA（営業利益＋減価償却費（のれん償却額含む））＋政府補助金（営業外収益に計上される）
＋M&A関連費用

高成長するフィジカルAI市場へデータ提供

フィジカルAI市場は、ロボティクス、自動運転、スマートインフラ等への適用拡大を背景に、今後10年以上にわたり高い成長が見込まれる。この市場において当社は、AIを学習・検証するためのデータを既に提供しており、市場拡大とともに中長期的な事業機会の拡大が期待される

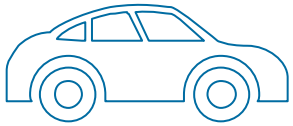
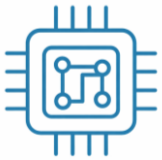
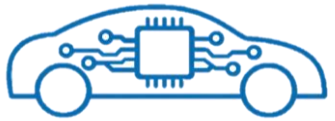


出典： Physical AI Market Size to Exceed USD 82,790.9 Million by 2035, Acumen Research and Consulting

法人ライセンスが拡大中（Data for AI）

車載ライセンスに加えて、法人単位で、大手自動車メーカーグループ・海外大手半導体メーカー・自動運転システム会社向けに「法人ライセンス」が拡大

顧客ニーズ

大手自動車メーカーグループ	海外大手半導体メーカー	自動運転システム開発会社
		

学習　　：AIを活用した自動運転/ADAS開発

検証・認証　：安全性確保や法規制・認証への対応

推論・判断　：AIが現実世界を理解・判断するためのデータ

当社の提供価値

グローバルで整備済の高精度3次元データを即時利用可能なデータとして提供

産業用途で期待される高い水準の精度と忠実度で現実世界を再現できるデータセットを提供

整備済データ資産を活用した高収益なライセンスビジネスの拡大

海外大手半導体メーカーよりAI用途法人ライセンス（Data for AI）追加受注

北米データの利用実績を踏まえ、欧州･韓国･日本データを追加受注

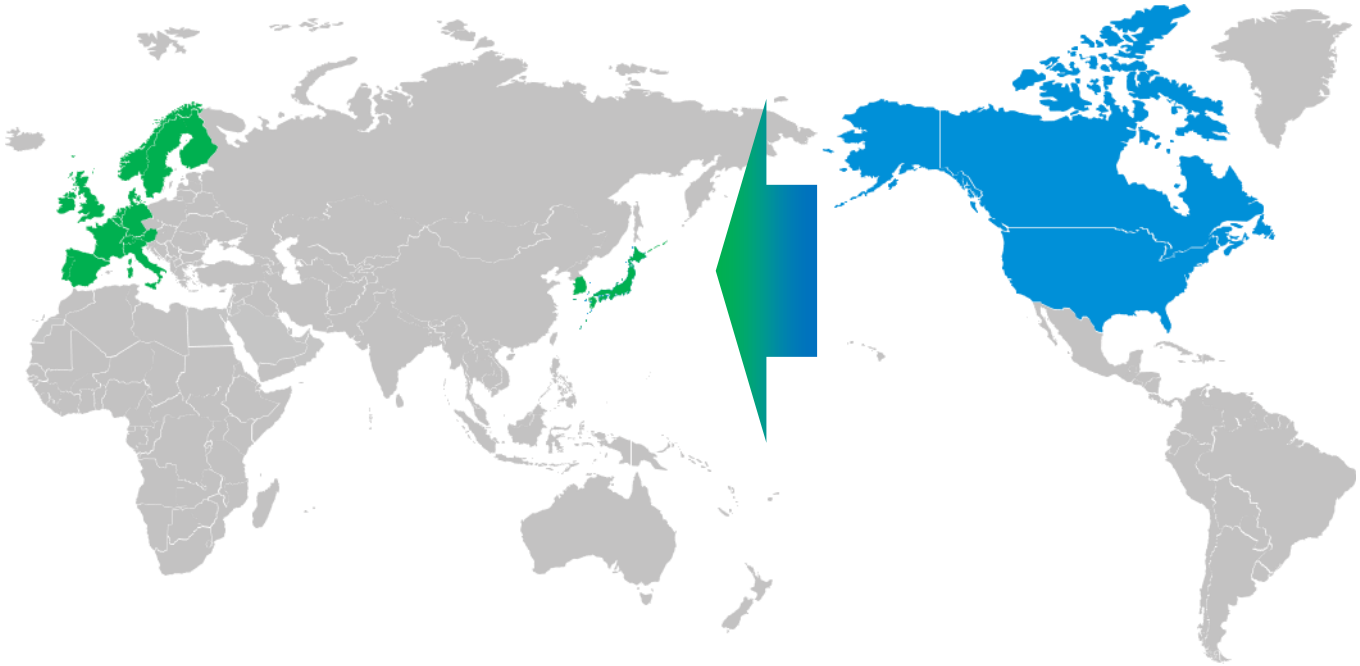
AIベースの自動運転･ADAS開発における当社データの有用性と、地域ごとの実世界データの重要性を確認

北米データの利用実績を通じ当社データの有用性を確認

- 海外大手半導体メーカー向け法人ライセンス案件
- AIベースの自動運転･ADAS開発にて利用
- 北米データの提供実績を踏まえ、追加地域データを受注

地域ごとの現実世界データの重要性

- 提供対象データが北米から欧州・韓国・日本へ拡大
- AI用途でも、地域ごとの道路環境･交通ルールを反映したデータが必要
- グローバルデータ資産の活用範囲が拡大



Data for AI需要の拡大を背景に、グローバルデータ資産のマネタイズが進展

本資料の取り扱いについて

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。